

令和7年度 中央国有林材供給調整検討委員会 議事次第

令和7年11月26日(水) 15:00~17:00

農林水産省 共用第6会議室

1 開 会

2 挨拶 (林野庁国有林野部長 長崎屋 圭太)

3 出席者紹介

4 議 事

(1) 木材需給動向について

(2) 国有林材の供給状況等について

(3) 令和7年度各森林管理局の国有林材供給調整検討委員会の  
検討結果について

(4) 意見交換

5 挨拶 (林野庁業務課長 岡村 篤憲)

6 閉 会

○配布資料

(1) 出席者名簿

(2) 資料1 木材需給動向について

(3) 資料2 国有林材の販売状況について

(4) 資料3 令和7年度 各森林管理局の国有林材供給調整検討委員会の  
検討結果について

## 令和7年度 中央国有林材供給調整検討委員会 出席予定者名簿

### ○委員

分野	所属・役職名	氏名	参加方式
原木流通(北海道)	物林 株式会社 営業本部 札幌支店 国産材営業部長	なかむら まきのり 中村 雅則	会場
原木流通(東北)	ノースジャパン素材流通協同組合 参与兼経営企画管理部長	いちじょう かつや 一条 克也	会場
製材(関東)	協和木材 株式会社 代表取締役	さがわ ひろおき 佐川 広興	会場
市場(中部)	株式会社 東海木材相互市場 代表取締役会長	すずき かずお 鈴木 和雄	会場
合板(近畿中国)	林ベニヤ産業 株式会社 代表取締役社長	ないとう かずゆき 内藤 和行	会場
製材(四国)	八幡浜官材協同組合 代表理事	まつしる たかゆき 松代 孝幸	会場
素材生産(九州)	株式会社 日高勝三郎商店 代表取締役 (全国素材生産業協同組合連合会会長)	ひだか かつさぶろう 日高 勝三郎	欠席
学識経験者	NPO法人活木活木(いきいき)森ネットワーク 理事長	えんどう くさお 遠藤 日雄	会場
所有者	全国森林組合連合会 系統事業部長 兼 購買課長	きくち ひであき 菊地 英晃	欠席
所有者 (住宅・バイオマス)	住友林業 株式会社 資源環境事業本部 森林資源部 部長	ももせ はるひこ 百瀬 晴彦	会場
市場・製品販売	東京中央木材市場株式会社 代表取締役社長	いじま よしお 飯島 義雄	WEB
学識経験者	国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 東北支所 産学官民連携推進調整監	くぼやま ひろふみ 久保山 裕史	会場
学識経験者	京都大学 大学院農学研究科 教授	たちばな きとし 立花 敏	WEB

### ○ 林野庁

所属・役職名	氏名
国有林野部長	長崎屋 圭太
国有林野部 業務課 課長	岡村 篤憲
〃 企画官(国有林材安定供給担当)	大道 一浩
〃 企画官(施業効率化担当)	上野 真一
〃 供給企画班担当課長補佐	中井 泰亮
〃 供給対策班担当課長補佐	鉢村 勉

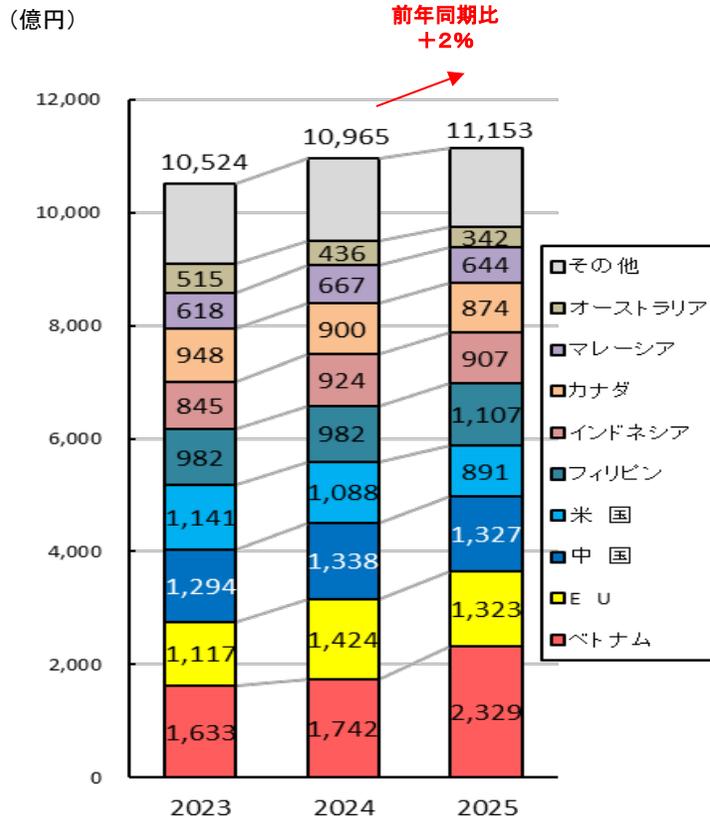
### ○ 森林管理局

所属・役職名	氏名
北海道森林管理局 資源活用第一課	
東北森林管理局 資源活用課	
関東森林管理局 資源活用課	
中部森林管理局 資源活用課	
近畿中国森林管理局 資源活用課	
四国森林管理局 資源活用課	
九州森林管理局 資源活用課	

## 木材需給動向について

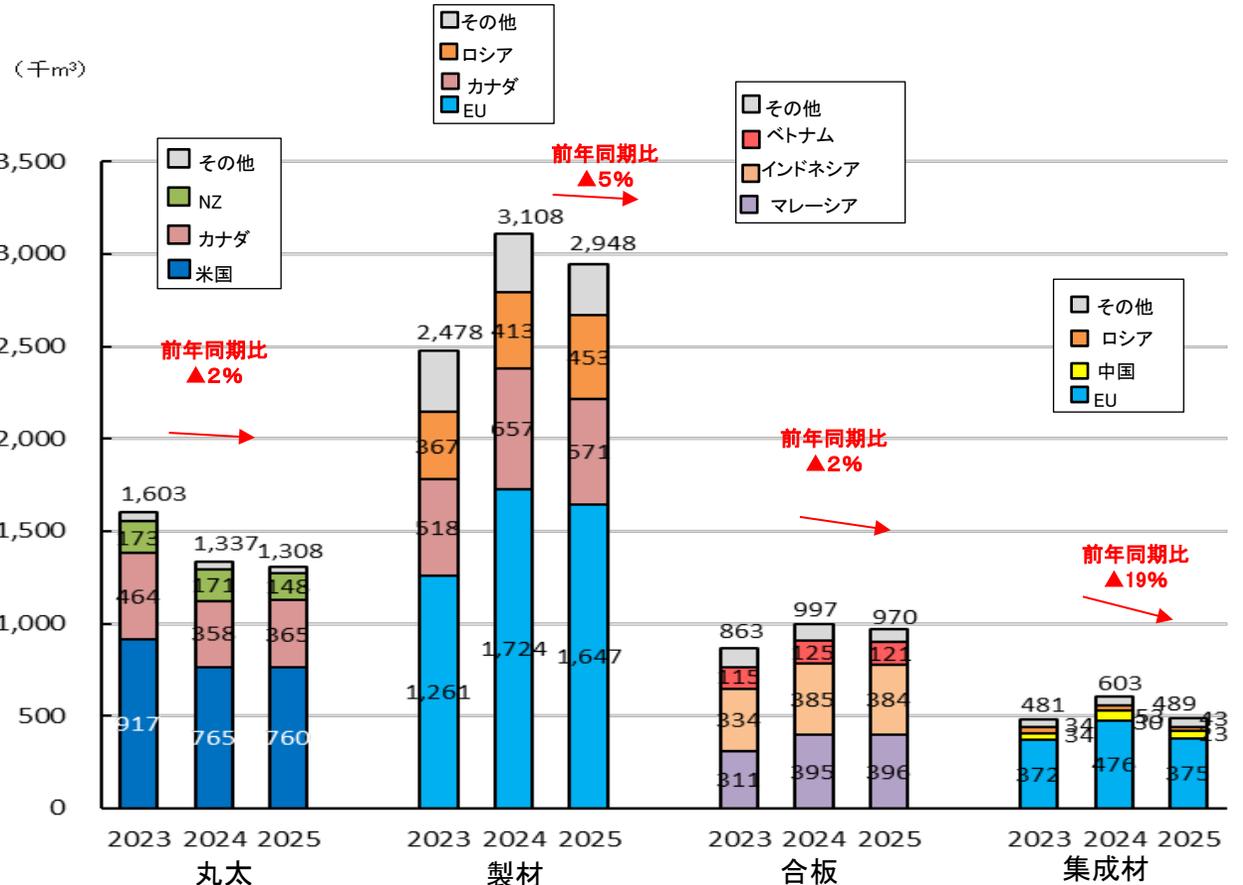
# 1. 2025年9月の木材輸入実績(累計)

- 2025年1月～9月の木材輸入額累計は、前年同期比+2%増の1兆1,153億円。
- 品目別の輸入量を見ると、丸太が前年同期比▲2%減、製材が同▲5%減、合板が同▲2%減、集成材が同▲19%減、木質ペレットが同+43%増となった。
- なお、2023年同期と比較すると、木材輸入額累計は+6%増。品目別輸入量では、丸太が▲18%減、製材が+19%増、合板が+10%増、集成材が+2%増、木質ペレットが+50%増。



資料:財務省「貿易統計」

木材輸入額の推移  
(2023～2025年における1月～9月累計)

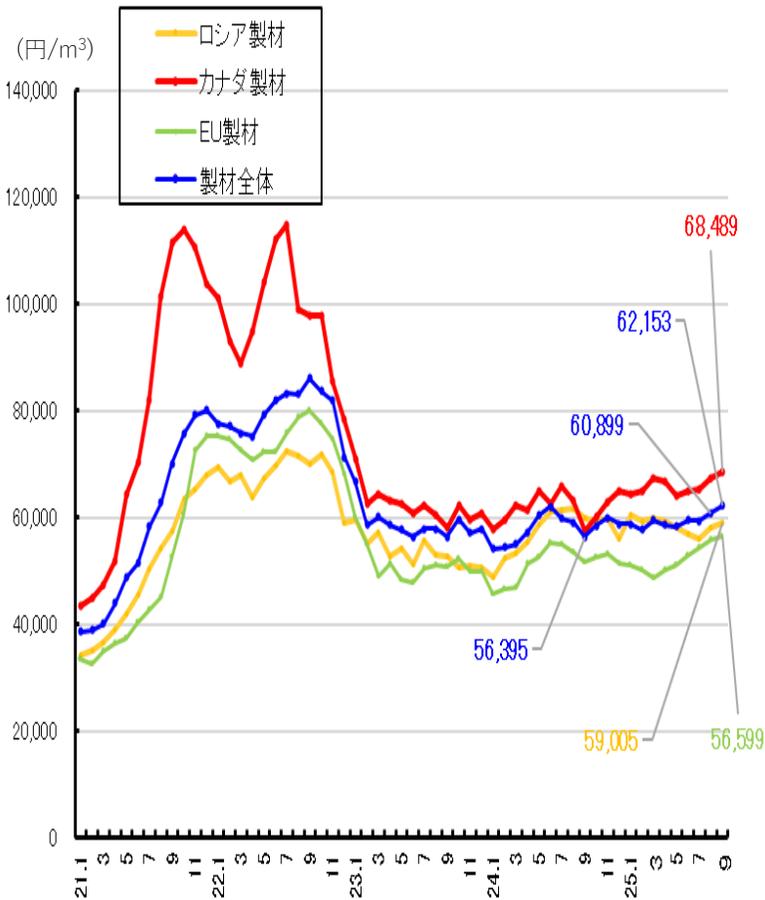


資料:財務省「貿易統計」

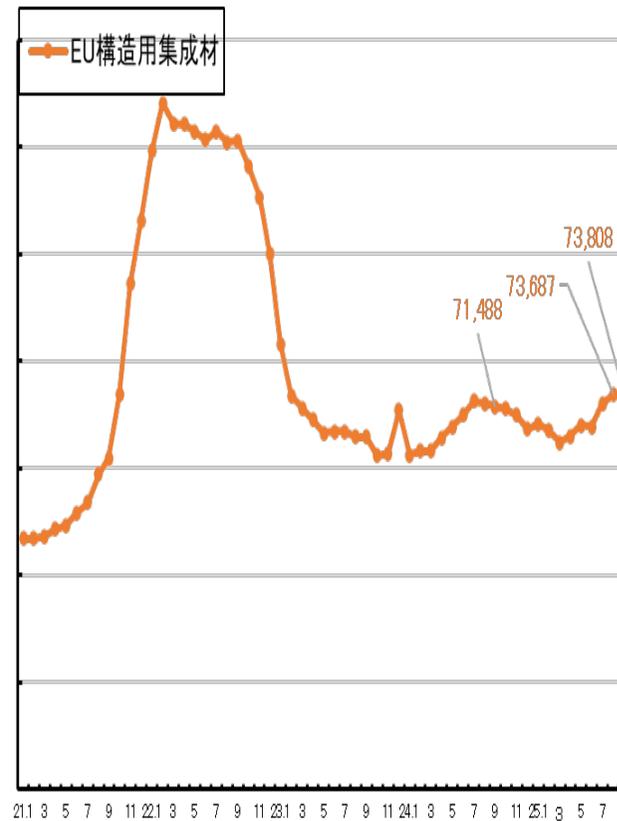
品目別木材輸入量の推移  
(2023～2025年における1月～9月累計)

# 製材・構造用集成材・合板の輸入平均単価

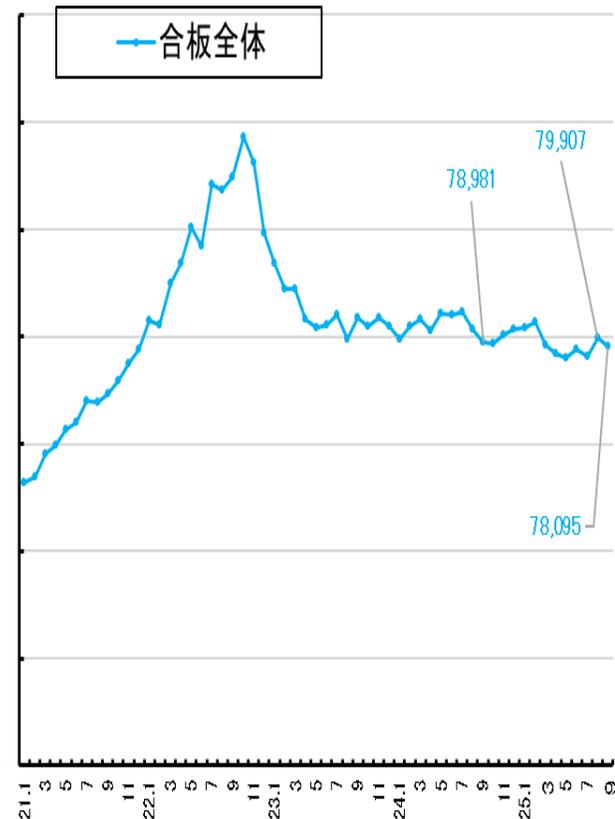
- 2025年9月の製材輸入平均単価(総輸入額/総輸入量)は、前月比+2%増の62,153円/m<sup>3</sup>(前年同月比+10%増)。国別に見ると、カナダの製材は、前月比+2%増の68,489円/m<sup>3</sup>(前年同月比+19%増)、EUの製材は、+1%増の56,599円/m<sup>3</sup>(前年同月比+10%増)、ロシアの製材は、前月比+2%増の59,005円/m<sup>3</sup>(前年同月比▲2%減)。
- 同月のEUからの構造用集成材輸入平均単価は、前月比横ばいの73,808円/m<sup>3</sup>(前年同月比+3%増)。
- 同月の合板輸入平均単価は、前月比▲2%減の78,095円/m<sup>3</sup>(前年同月比▲1%減)。



製材の輸入平均単価



構造用集成材の輸入平均単価

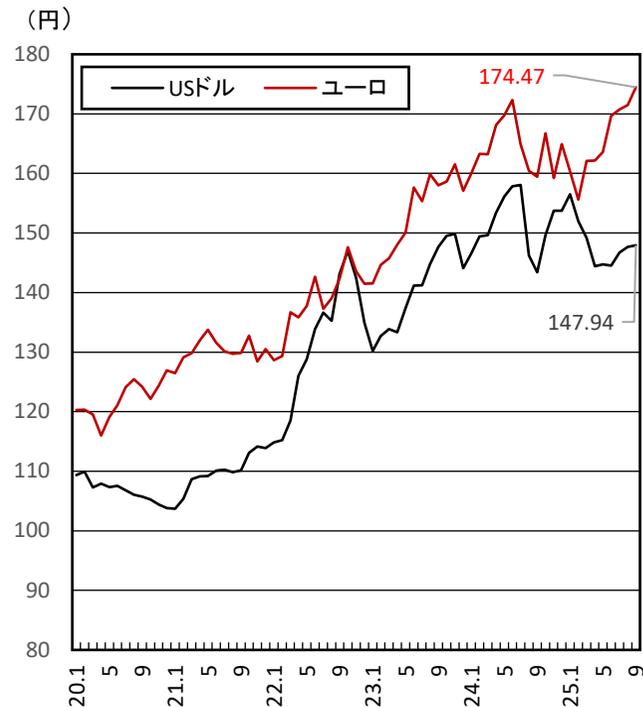


合板の輸入平均単価

注：輸入平均単価は、総輸入額を総輸入量で割った値。

# 為替相場、コンテナ運賃、米国における木材価格の動向等

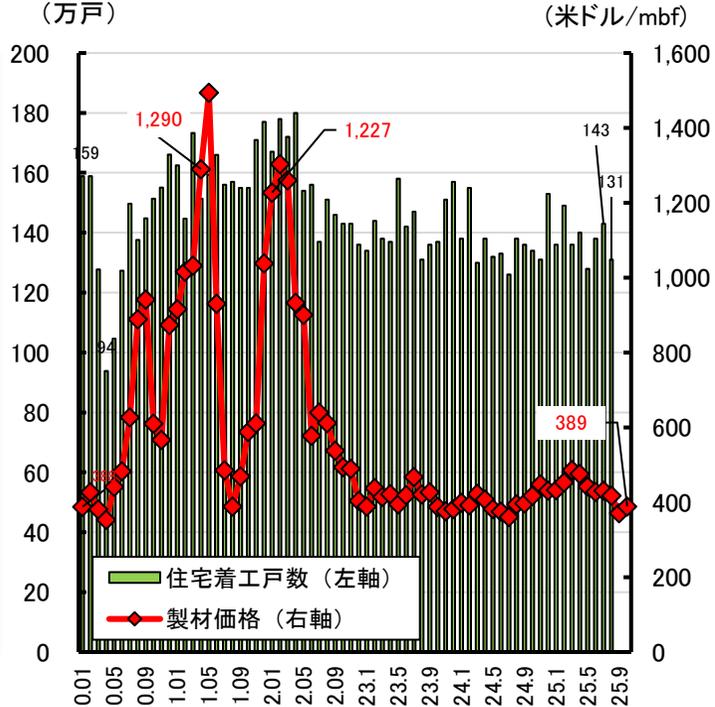
- USドル及びユーロ為替相場は2022年に大幅に上昇したのち、年末にかけて一度下落したが、その後も上昇傾向が続き、2025年9月の為替相場は、1ドル147.94円、1ユーロ174.47円。
- 日本向けコンテナ運賃は、欧州発、米国発ともに一時期高騰したものの、2023年末時点で概ね元の水準まで下落。しかしながら、2024年1月には、紅海でのフーシ派攻撃によるサプライチェーンの混乱の影響で欧州発が一時高騰。
- 米国の住宅着工戸数（戸建て計）は、新型コロナウイルス感染症の影響により2020年4月に急落。その後回復し、2022年5月からは概ね130～150万台で推移。2025年8月は前月比▲8%減の約131万戸。
- 北米の製材価格は、2020年夏頃から大幅な変動を繰り返し、2021年5月には1,494ドル/mbf、2022年2月には1,303ドル/mbfを記録した後、2023年以降は概ね400ドル/mbf前後で推移。2025年10月は389ドル/mbf（前月比+5%増）。



USドル及びユーロ為替相場



日本向けコンテナ運賃の推移



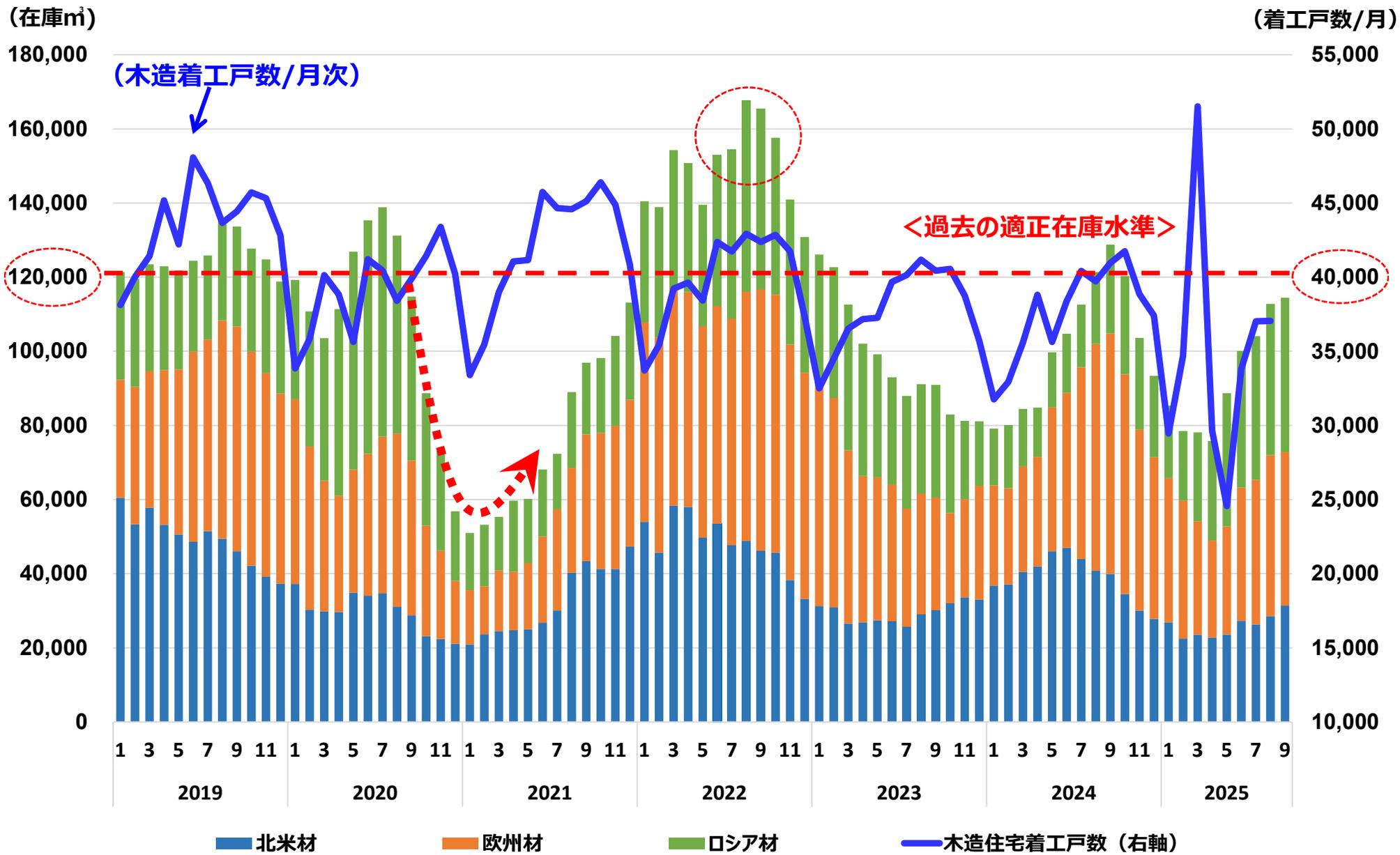
米国における住宅着工戸数と製材価格の推移

資料：(住宅着工戸数) 米国商務省「住宅着工統計」(季節調整済み、年率換算、戸建て計)  
(製材価格) Random Lengths「Framing Lumber Composite Price」  
(月末価格、2022年6以降は月中価格)

資料：USドルは日銀 主要時系列統計データ表、為替相場  
(東京市場 スポットレート 中心相場 月中平均)  
ユーロは日銀「金融経済統計月報」対顧客為替相場

資料：日本海事センター「主要航路コンテナ運賃動向」  
(注) 40ftコンテナ。「米国発」はLos Angeles発横濱着、  
「欧州発」はRotterdam発横濱着。  
(出典) Drewry「Container Freight Rate Insight」

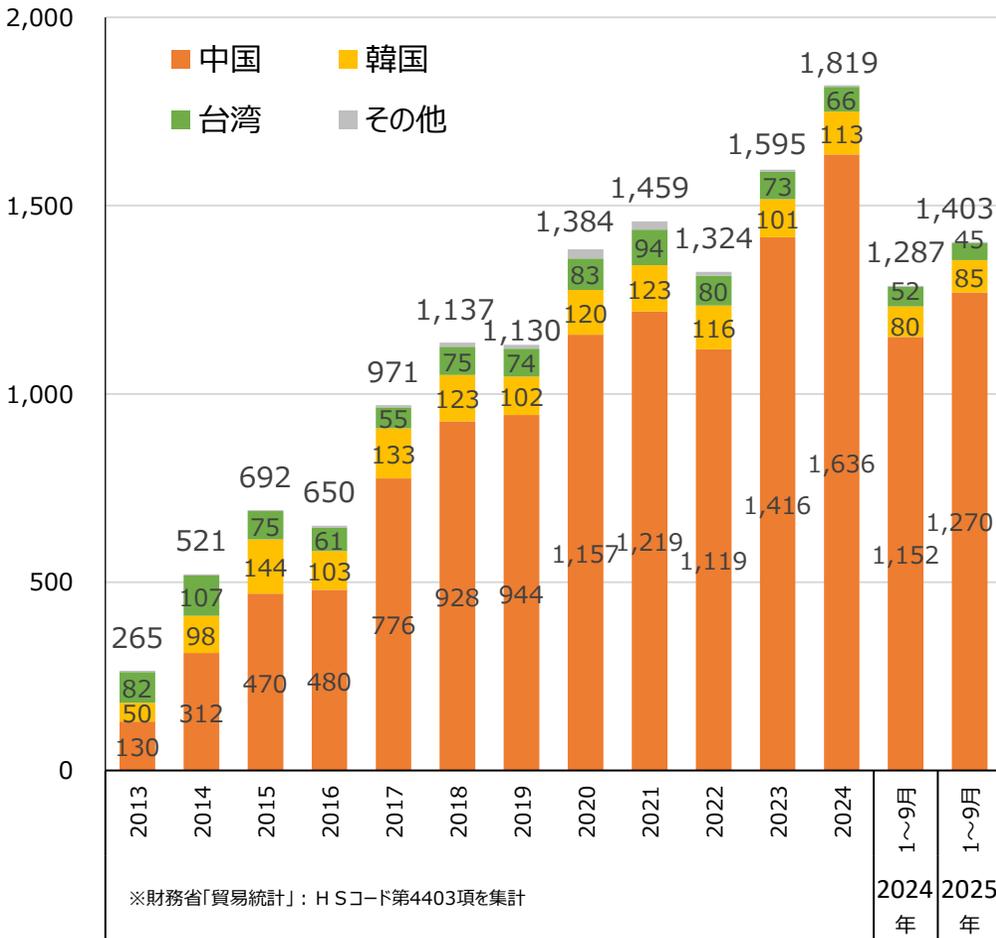
# 「東京港製材品在庫」と木造着工数の推移



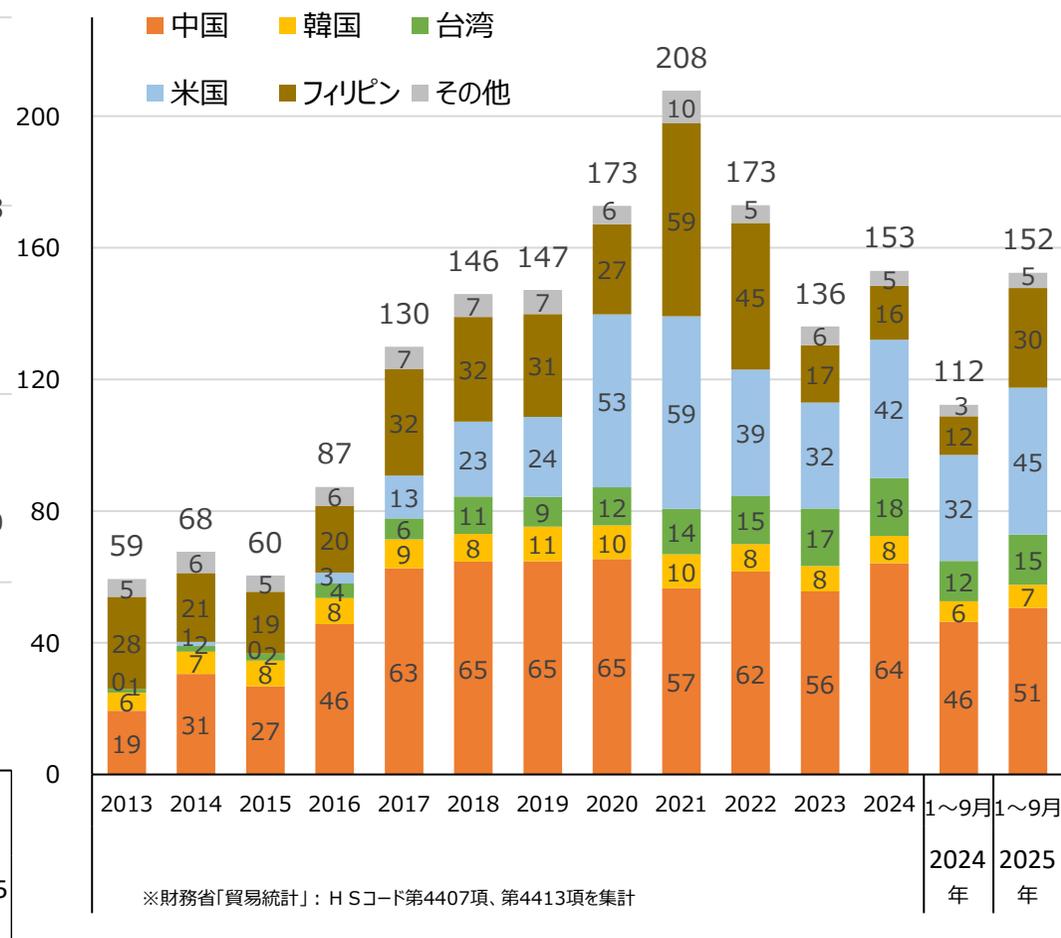
# 木材輸出の動向について

- 2025年1～9月の丸太の輸出量は、前年同期比+9%増の1,403千m<sup>3</sup>となり、90%を中国向けが占めている。
- 2025年1～9月の製材の輸出量は、前年同期比+36%増の152千m<sup>3</sup>となり、輸出先別では中国向けが51千m<sup>3</sup>（前年同期比+9%）で全体の33%を、米国向けが45千m<sup>3</sup>（前年同期比+38%）で全体の29%をそれぞれ占めている。

(千m<sup>3</sup>) 丸太輸出量 (国・地域別)



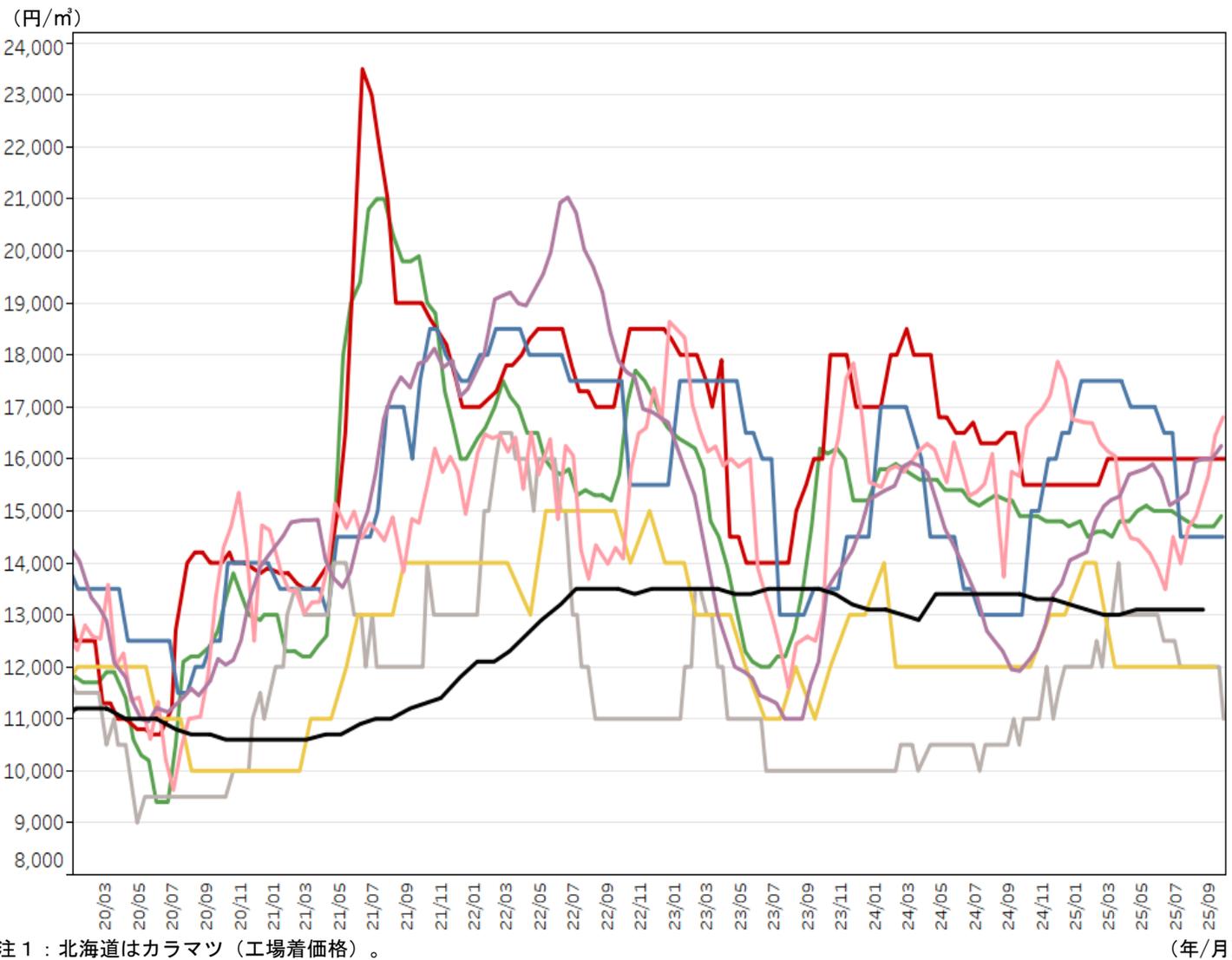
(千m<sup>3</sup>) 製材輸出量 (国・地域別)



# 1 価格の動向 (1) 原木価格 (原木市場・共販所)

## ア スギ (全国) 径24cm程度、長3.65~4.0m (2020年1月~)

・ 全国の原木市場・共販所において、直近のスギ原木価格は、11,000円~16,800円/m<sup>3</sup>となっている。



(単位：円/m<sup>3</sup>)

都道府県	2025年直近※	前年同期	前年同期比
北海道	13,100	13,400	98%
秋田県	16,250	11,920	136%
栃木県	16,800	15,670	107%
長野県	12,000	12,000	100%
岡山県	11,000	11,000	100%
高知県	14,500	13,000	112%
熊本県	16,000	15,500	103%
宮崎県	14,900	14,900	100%

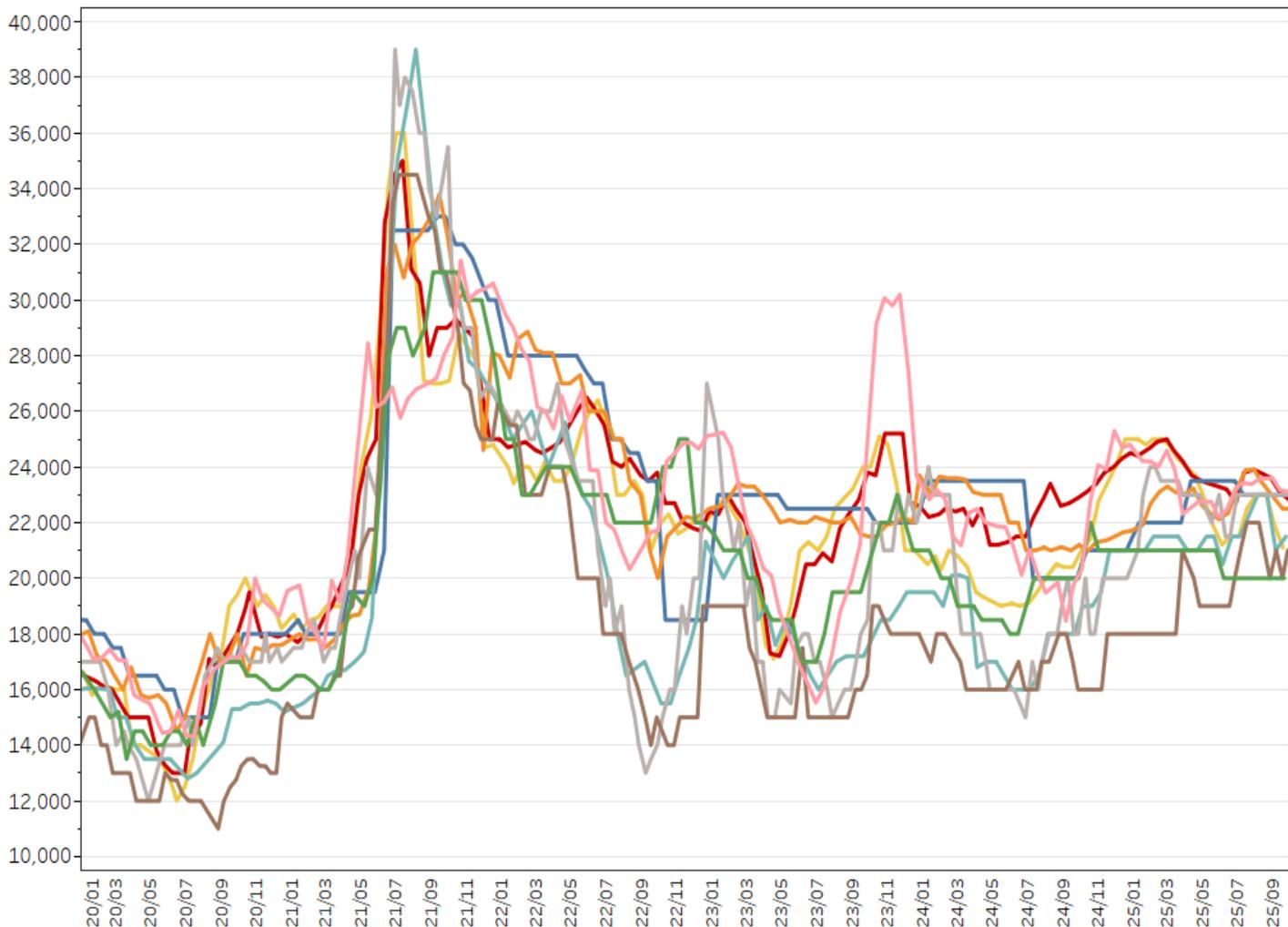
※北海道については8月、秋田県、栃木県、長野県、岡山県、高知県、熊本県及び宮崎県については9月の値を使用。

注1：北海道はカラマツ（工場着価格）。  
 注2：都道府県が選定した特定原木市場・共販所の価格。

# イ ヒノキ (全国) 径24cm程度、長3.65~4.0m (2020年1月~)

・ 全国の原木市場・共販所において、直近のヒノキ原木価格は、20,000円~23,110円/m<sup>3</sup>となっている。

(円/m<sup>3</sup>)



(単位：円/m<sup>3</sup>)

都道府県	2025年直近※	前年同期	前年同期比
栃木県	23,110	19,800	117%
静岡県	20,000	20,000	100%
兵庫県	21,000	16,000	131%
岡山県	23,000	18,000	128%
広島県	21,500	18,000	119%
愛媛県	22,500	21,200	106%
高知県	23,000	20,000	115%
熊本県	22,800	22,900	100%
大分県	21,100	20,400	103%

※各県9月の値を使用。

注：都道府県が選定した特定の原木市場・共販所の価格。

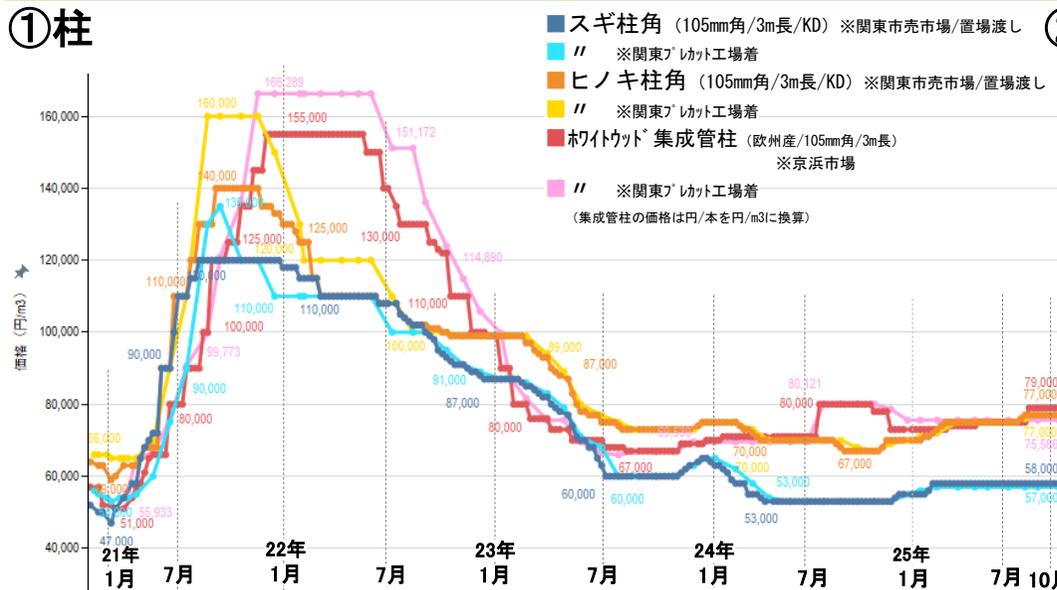
資料：林野庁木材産業課調べ

(年/月)

# (2) 製品価格

令和3(2021)年は、世界的な木材需要の高まり等により輸入材製品価格が高騰し、代替需要により国産材製品価格も上昇。令和4(2022)年以降、柱、間柱、平角の価格は長期的に下落傾向であったが、国産材の柱の価格は令和6(2024)年4月に入り横ばいで推移していたが12月から上昇し、その後横ばい。構造用合板の価格は、令和7(2025)年1月まで下落を続けた後、上昇傾向。

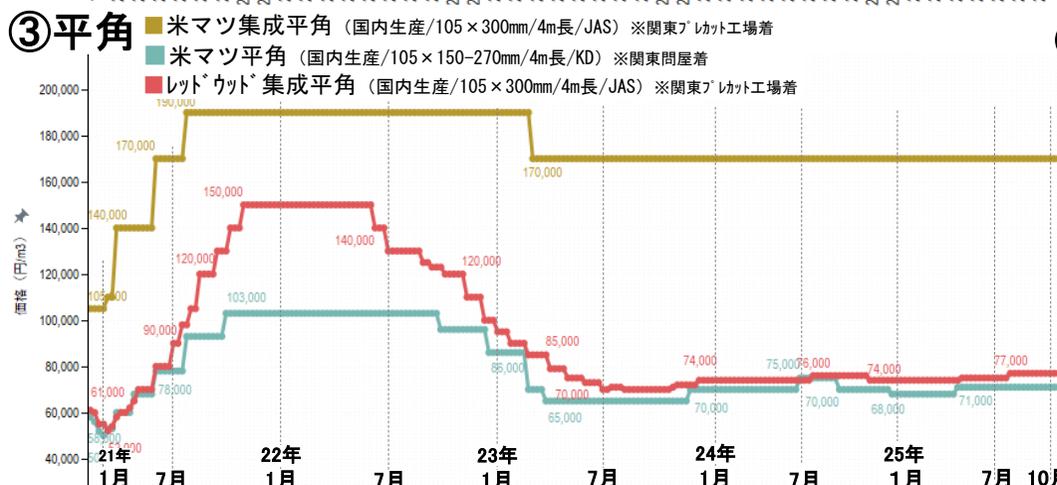
## ① 柱



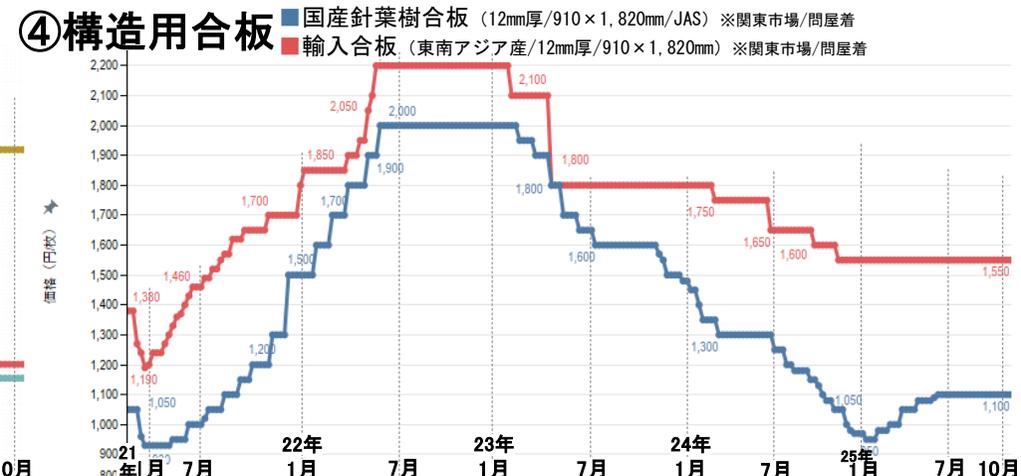
## ② 間柱



## ③ 平角



## ④ 構造用合板

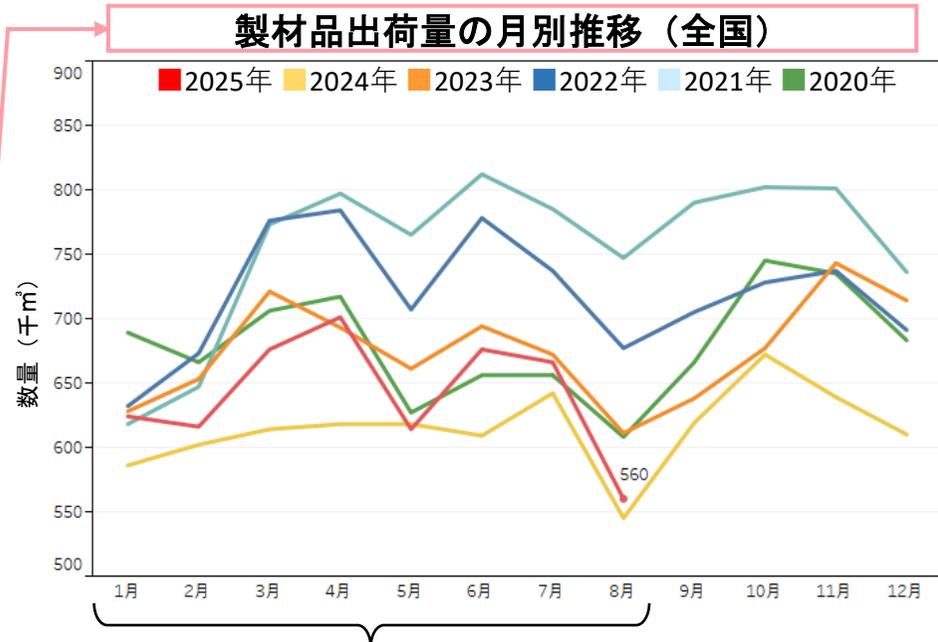
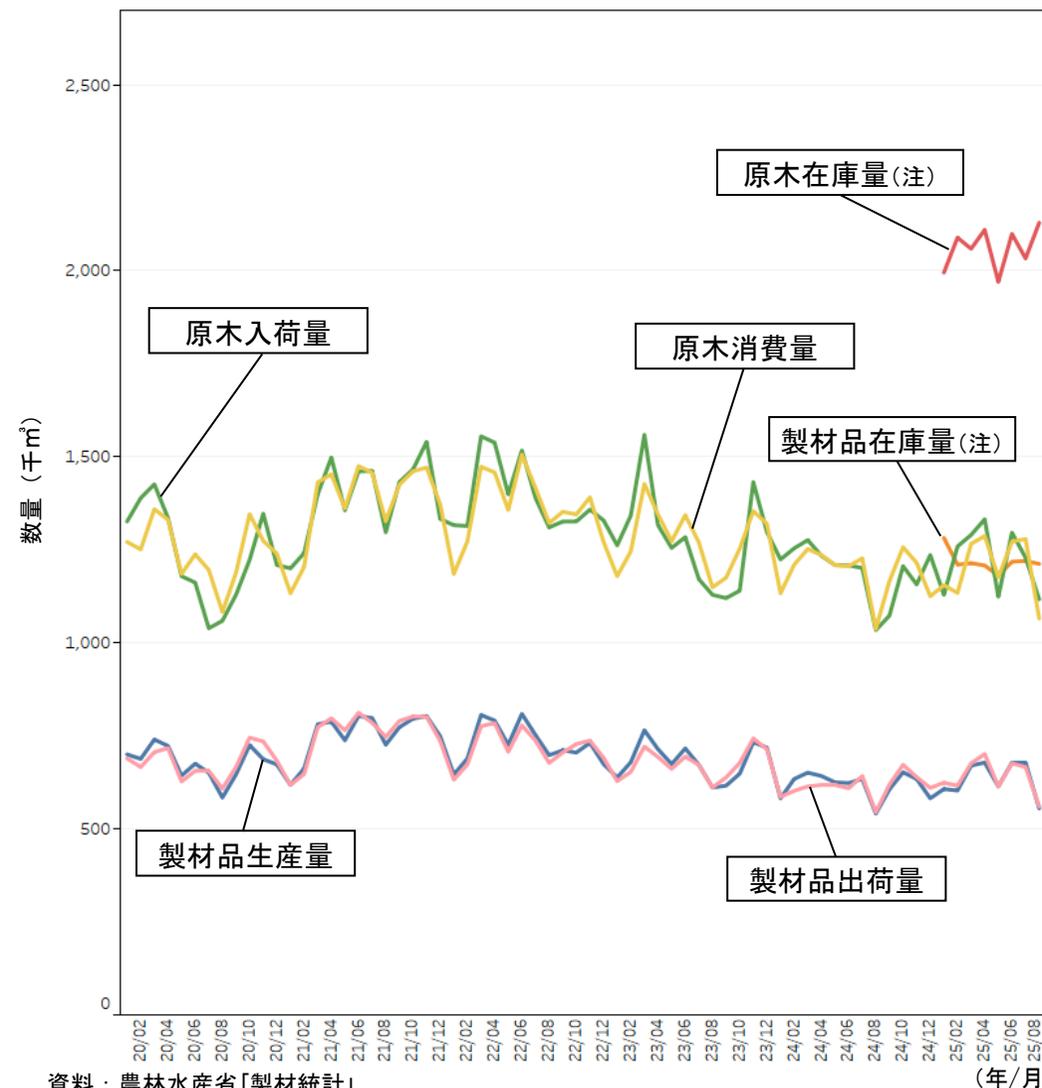


資料：①③④木材建材ウイクリー、①②日刊木材新聞

## 2 工場の原木等の入荷、製品の生産等の動向

### (1) 製材 (全国)

- 2025年1～8月の原木の入荷量は9,776千m<sup>3</sup> (前年比101%)。
- 同様に製材品の出荷量は5,133千m<sup>3</sup> (前年比106%)。



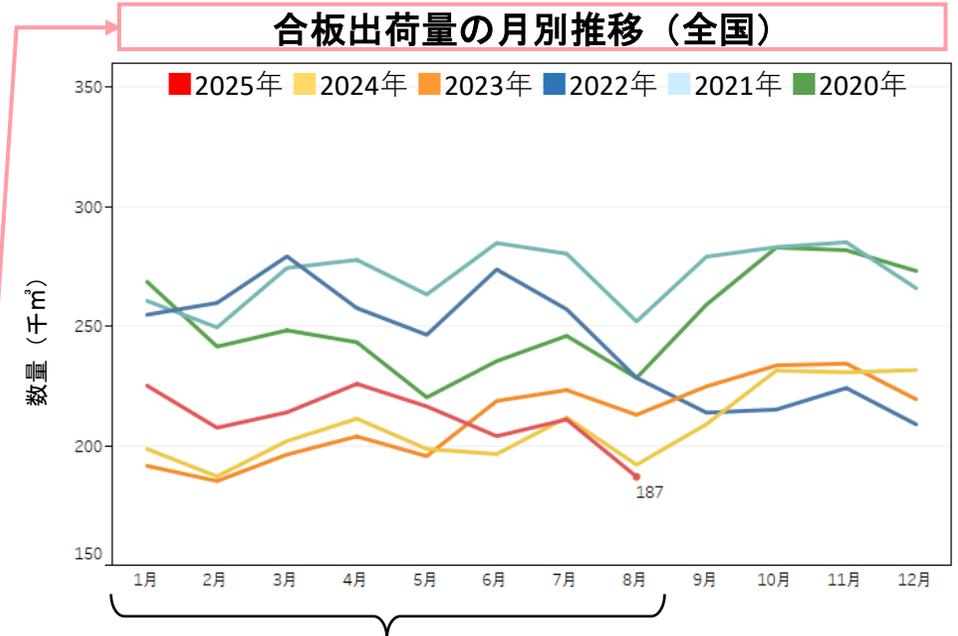
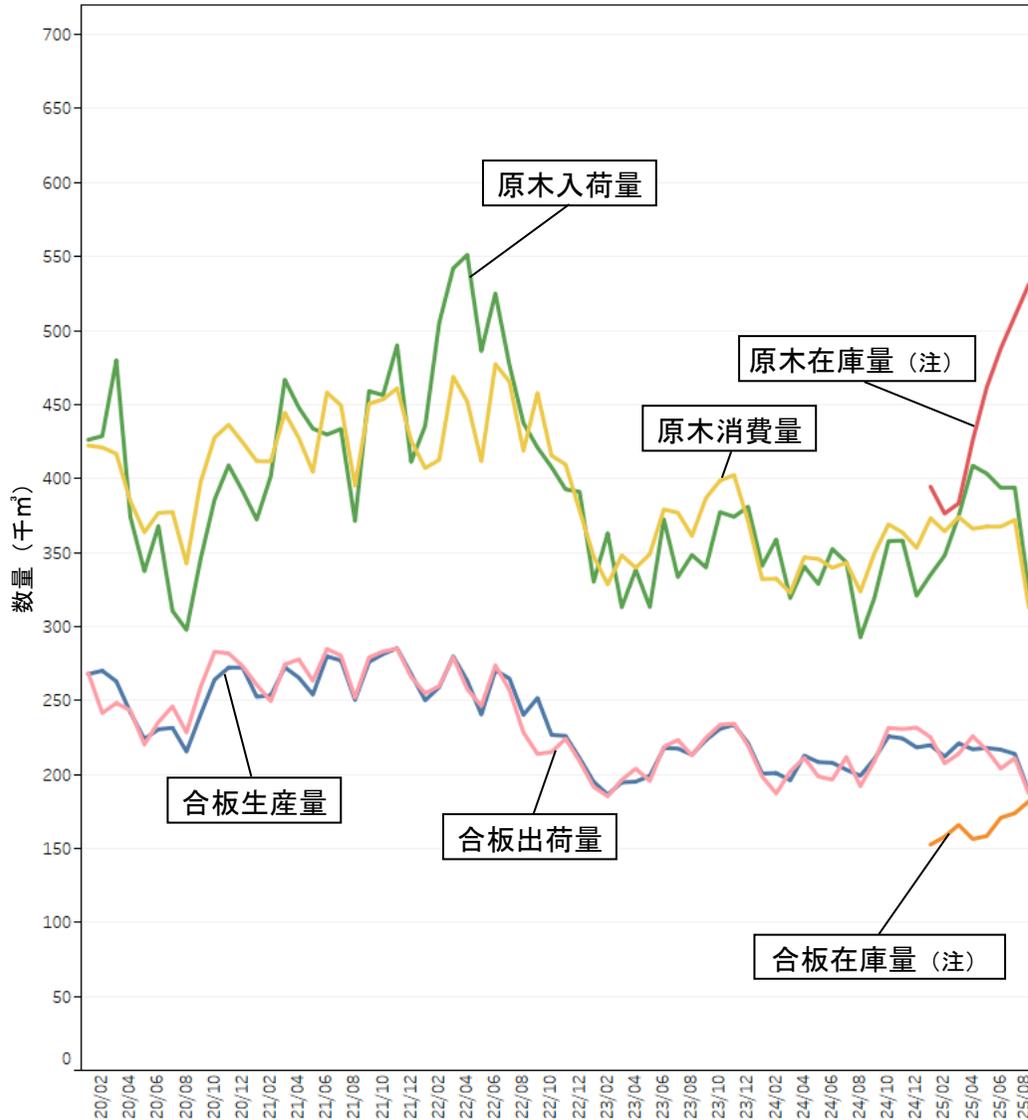
	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
1～8月原木入荷量合計(千m <sup>3</sup> )	9,916	10,914	11,338	10,318	9,640	<b>9,776</b>
前年との比較	-	110%	104%	91%	93%	<b>101%</b>
1～8月製材品出荷量合計(千m <sup>3</sup> )	5,325	5,944	5,764	5,333	4,834	<b>5,133</b>
前年との比較	-	112%	97%	93%	91%	<b>106%</b>

資料：農林水産省「製材統計」

注) 原木在庫量、製材品在庫量については、2025年1月から月末在庫量の算出方法が変更されたため、当該月から掲載。

## (2) 合板 (全国)

- 2025年1～8月の原木の入荷量は2,981千 $m^3$  (前年比111%) 。
- 同様に合板の出荷量は1,691千 $m^3$  (前年比106%) 。



	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
1～8月原木入荷量合計(千 $m^3$ )	3,022	3,356	3,959	2,712	2,676	<b>2,981</b>
前年との比較	-	111%	118%	69%	99%	<b>111%</b>
1～8月製材品出荷量合計(千 $m^3$ )	1,931	2,142	2,057	1,627	1,598	<b>1,691</b>
前年との比較	-	111%	96%	79%	98%	<b>106%</b>

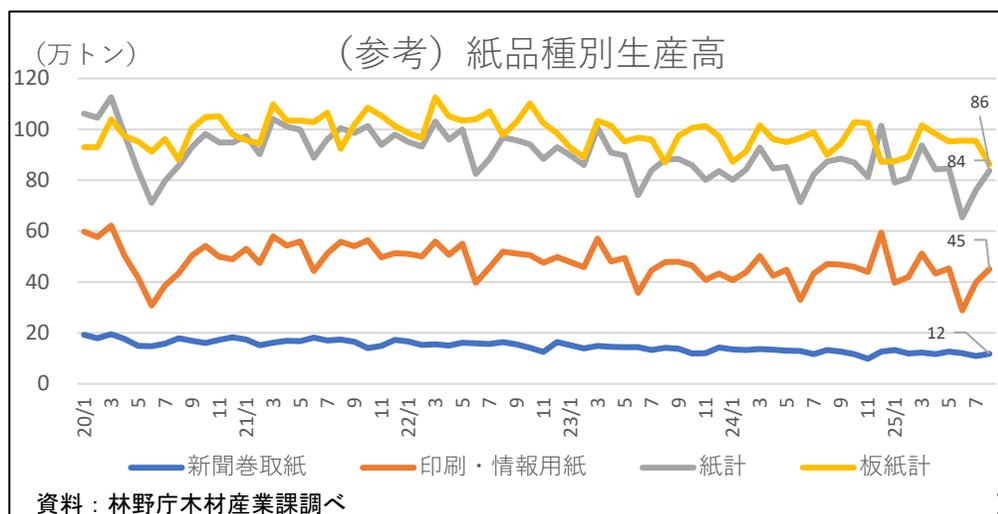
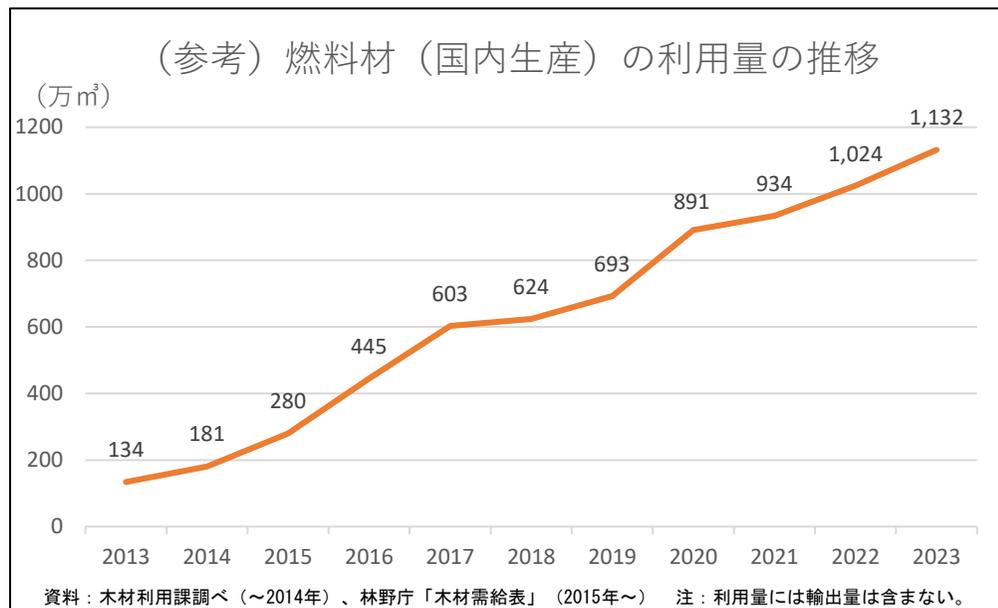
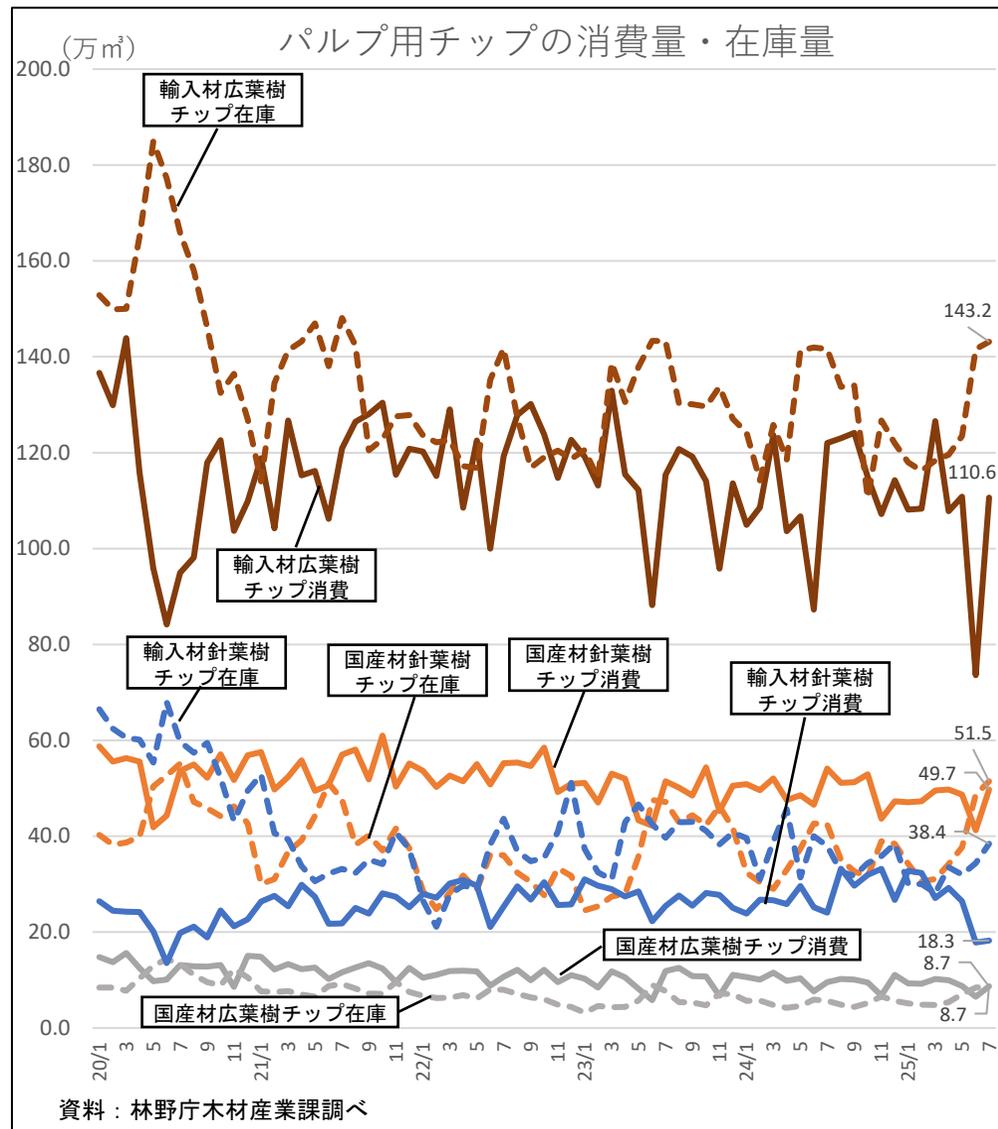
資料：農林水産省「合板統計」

(年/月)

注) 原木在庫量、製材品在庫量については、2025年1月から月末在庫量の算出方法が変更されたため、当該月から掲載。

### (3) チップ (全国)

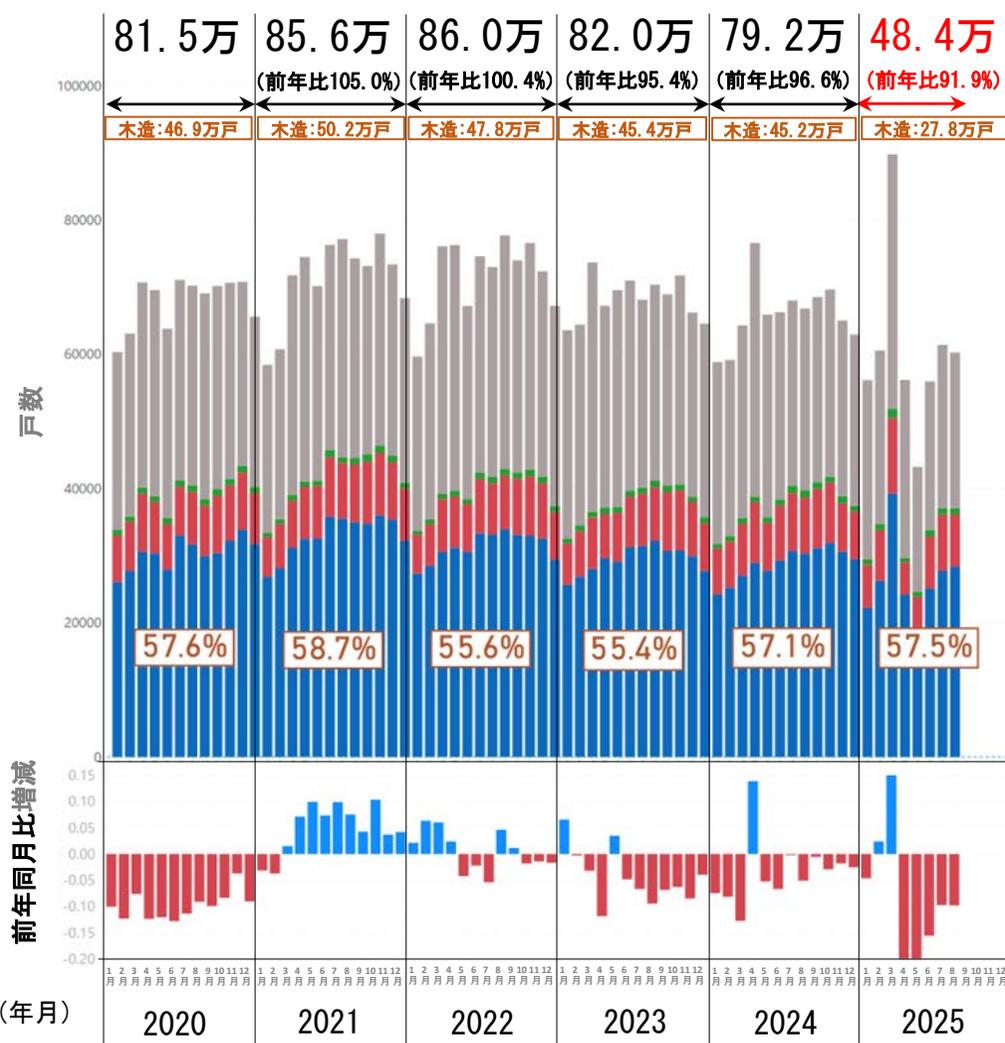
- パルプ用チップの消費について、2025年7月の輸入材広葉樹チップの消費量は110.6万 $\text{m}^3$ 。国産材針葉樹チップの消費量は49.7万 $\text{m}^3$ となっている。
- 燃料材（国内生産）の利用量は、発電利用を中心に増加（過去10年間で約8倍）。



### 3 住宅着工戸数の動向（2020年1月～2025年8月）

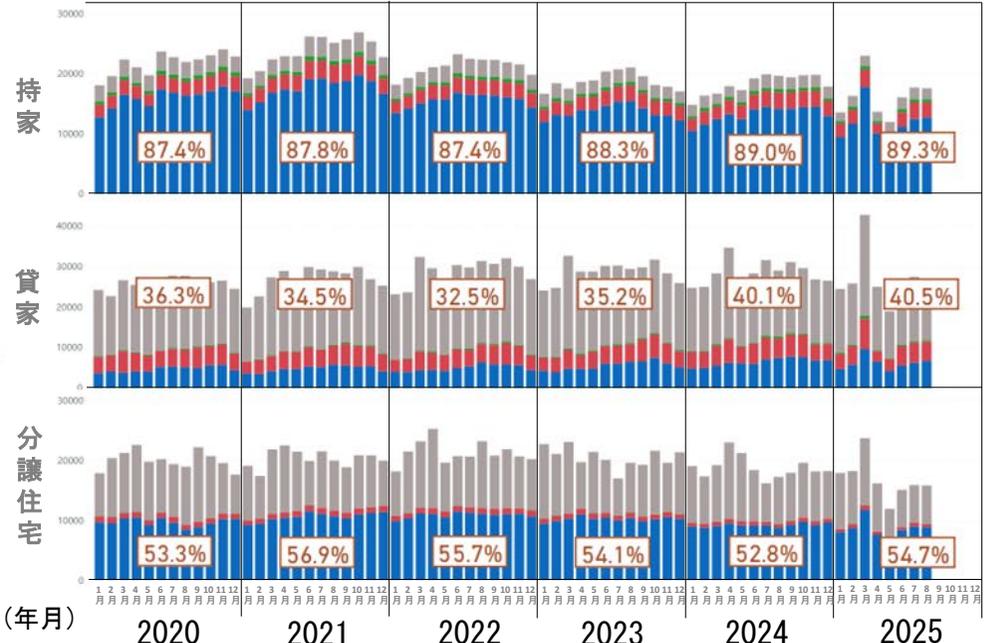
- 2024年の新設住宅着工戸数は79.2万戸（前年比▲3.3%）、このうち木造住宅は45.2万戸（同▲0.5%）となり、2023年の水準を下回ったものの、非木造の34.0万戸（同▲6.9%）に対して木造住宅の減少率は低く留まっており、2024年の新設住宅における木造率は57.1%（前年比+1.7ポイント）となった。
- 2025年1～8月の新設住宅着工戸数は48.4万戸（前年同期比91.9%）、このうち木造住宅は27.8万戸（同94.8%）。

新設住宅着工戸数の推移



構造別の着工戸数	2025年 1～8月	前年 同期	前年 同期比	前々年 同期	前々年 同期比
合計	483,584	525,962	91.9%	548,089	88.2%
■非木造	205,514	232,662	88.3%	249,137	82.5%
■木造	278,070	293,300	94.8%	298,952	93.0%
■木造プレハブ	7,016	6,977	100.6%	6,906	101.6%
■2×4	59,405	62,850	94.5%	57,859	102.7%
■在来軸組	211,649	223,473	94.7%	234,187	90.4%
□木造率	57.5%	55.8%		54.5%	

(参考) 利用関係別の着工戸数（ただし、「給与住宅」を除く。）

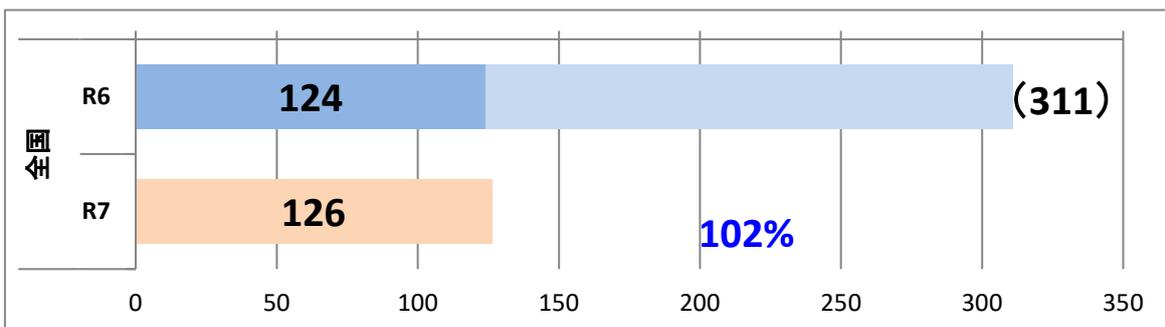
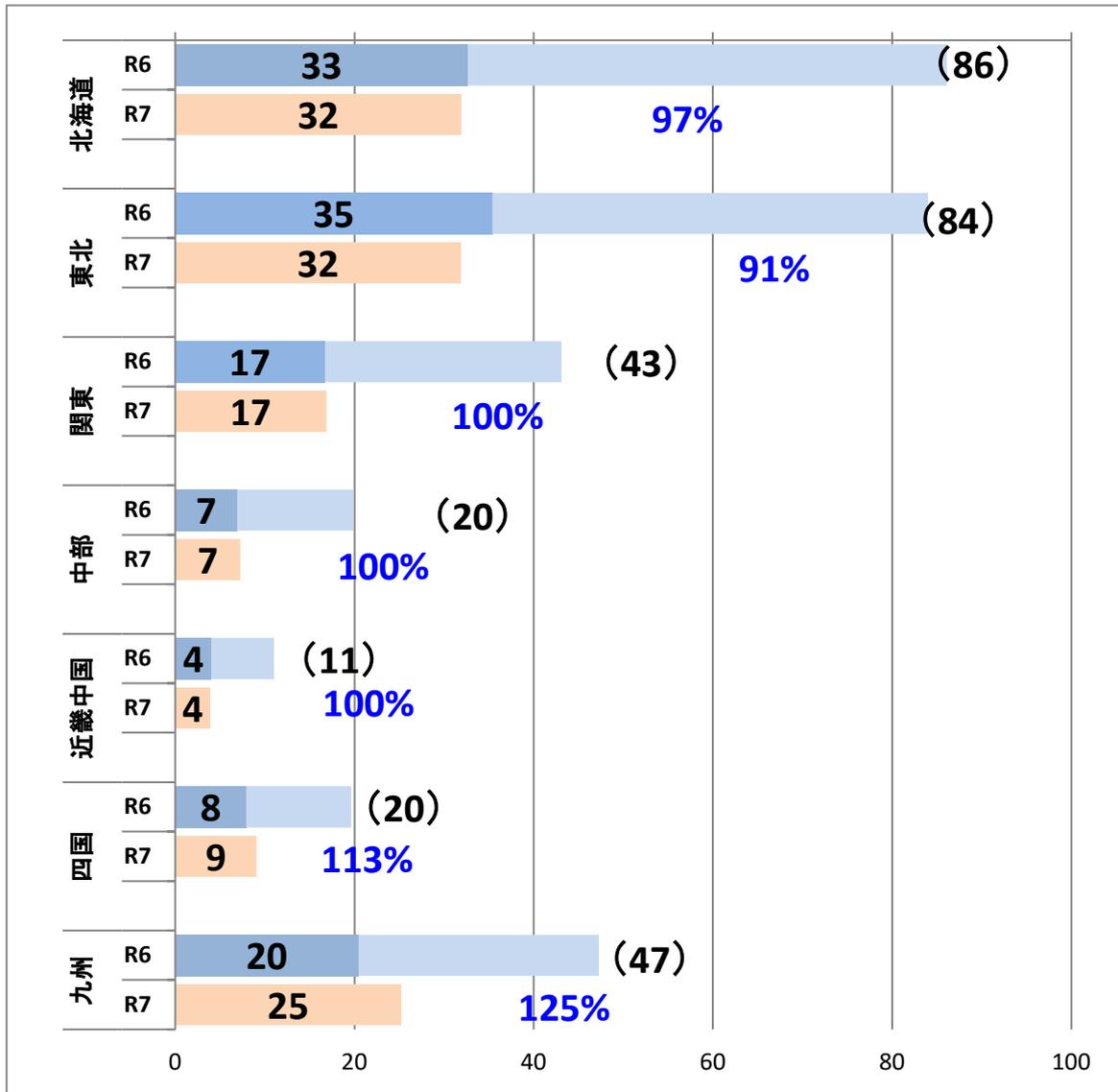


資料：国土交通省「住宅着工統計」

## 国有林材の販売状況(令和7年9月末時点)

## 【素材(丸太)販売】

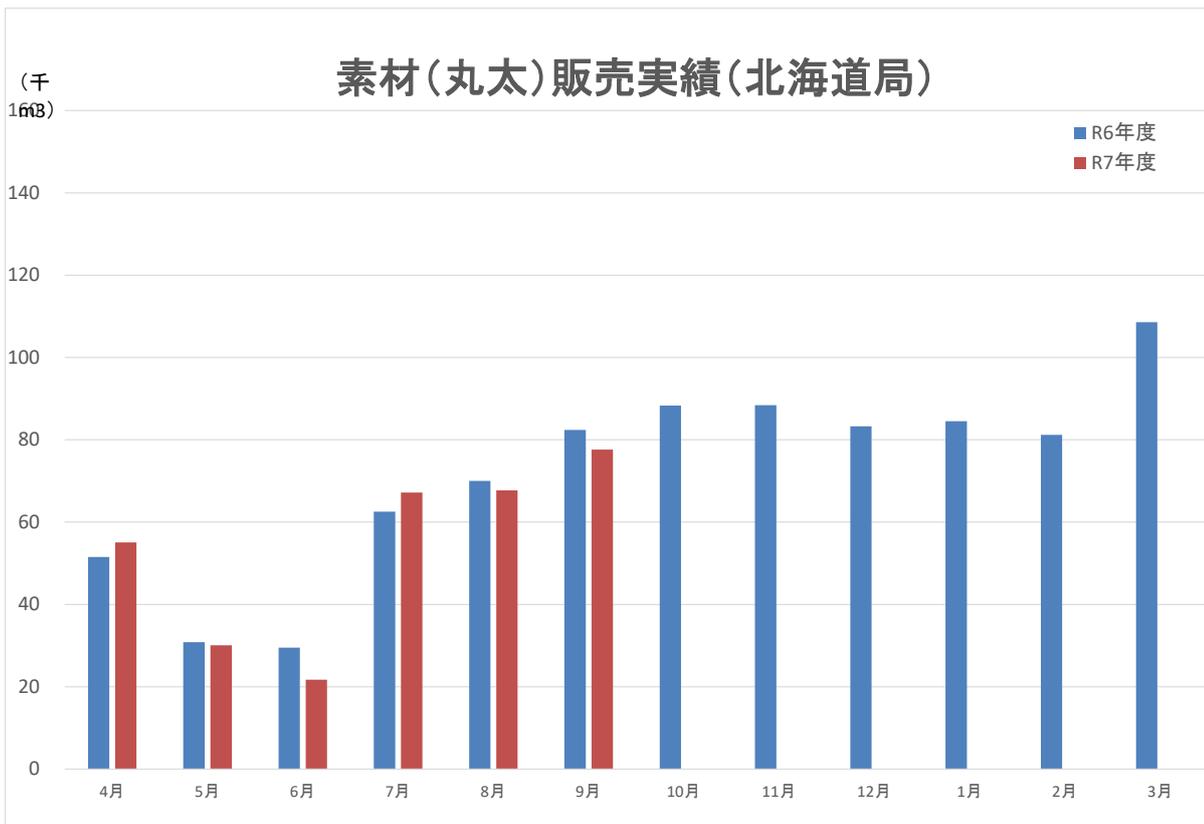
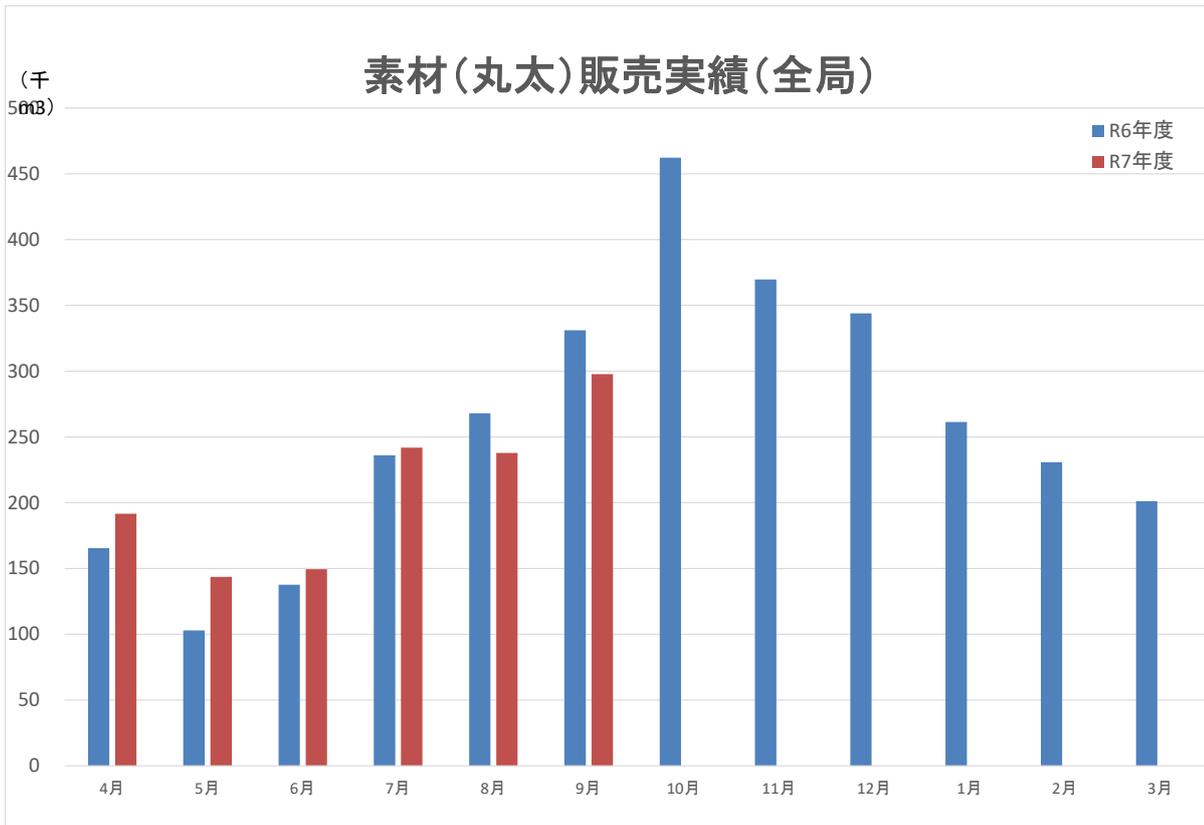
(万m3)



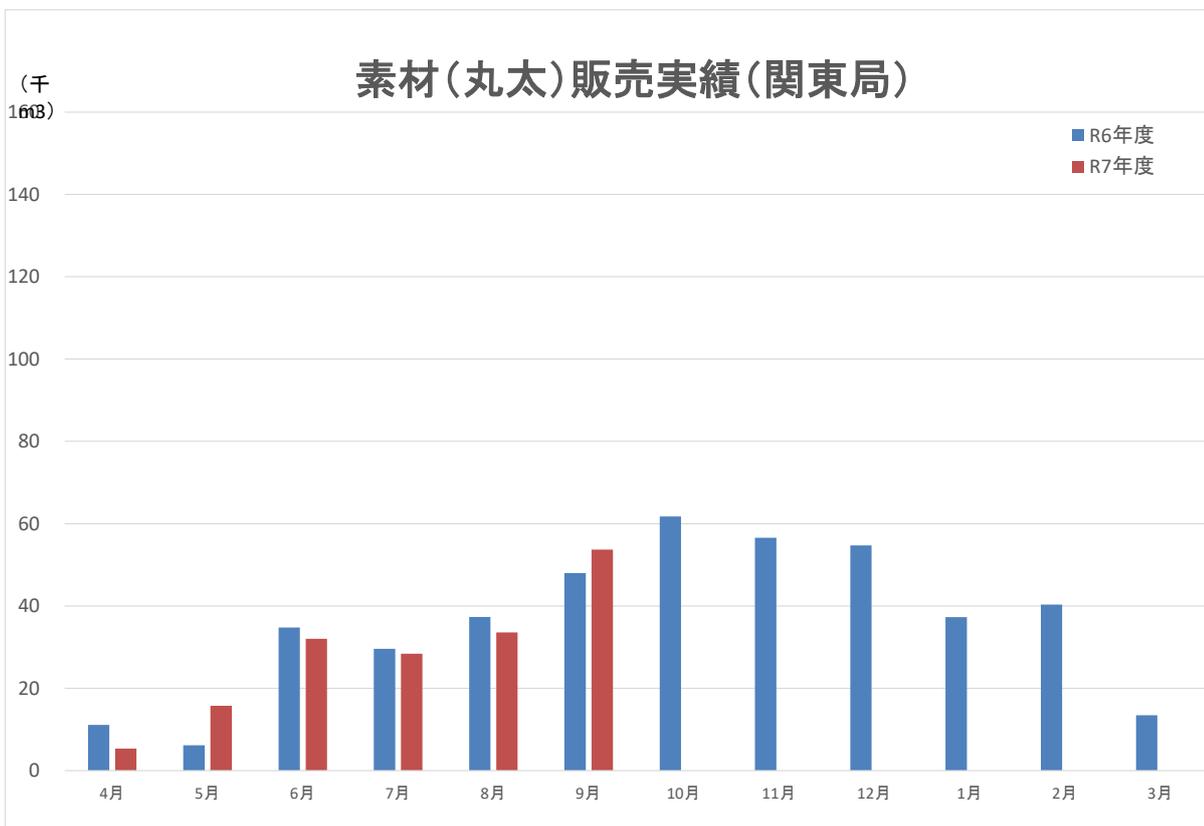
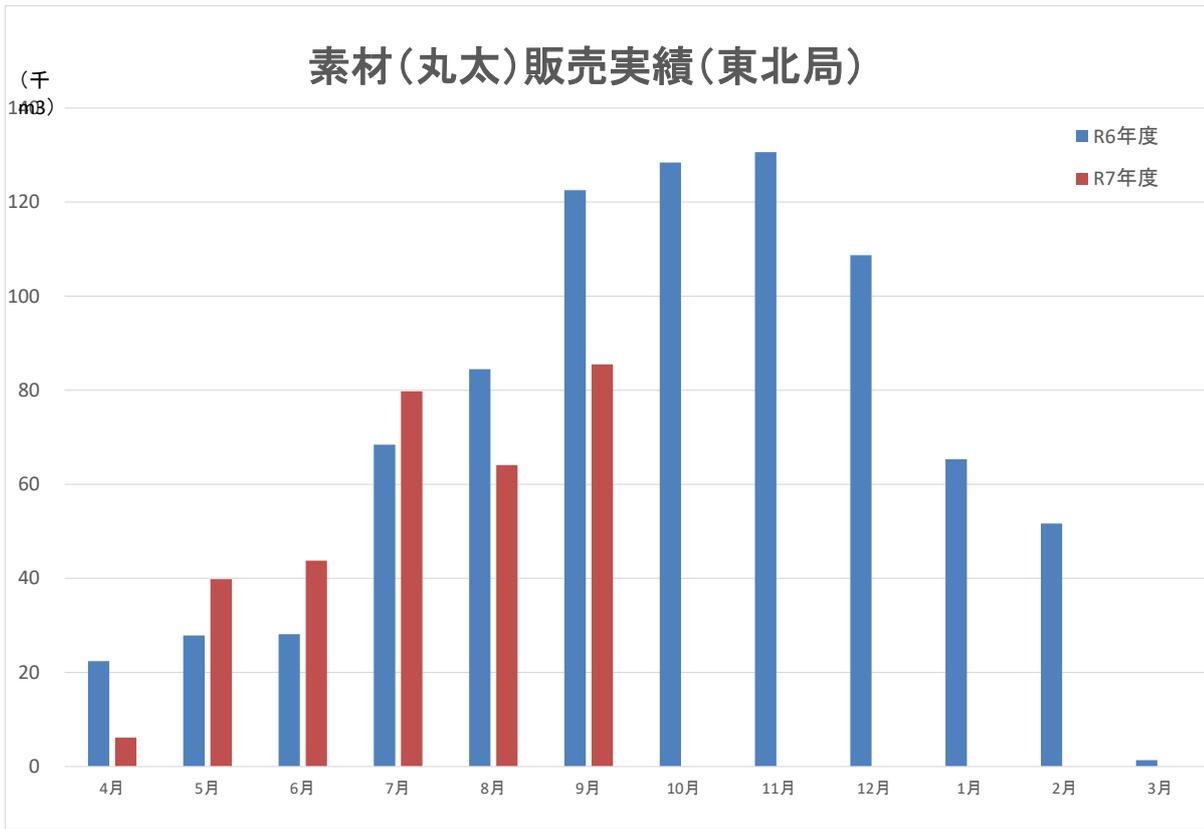
※( )内の数値はR6年度の年間販売量

※青数字は9月末時点での販売量の前年比

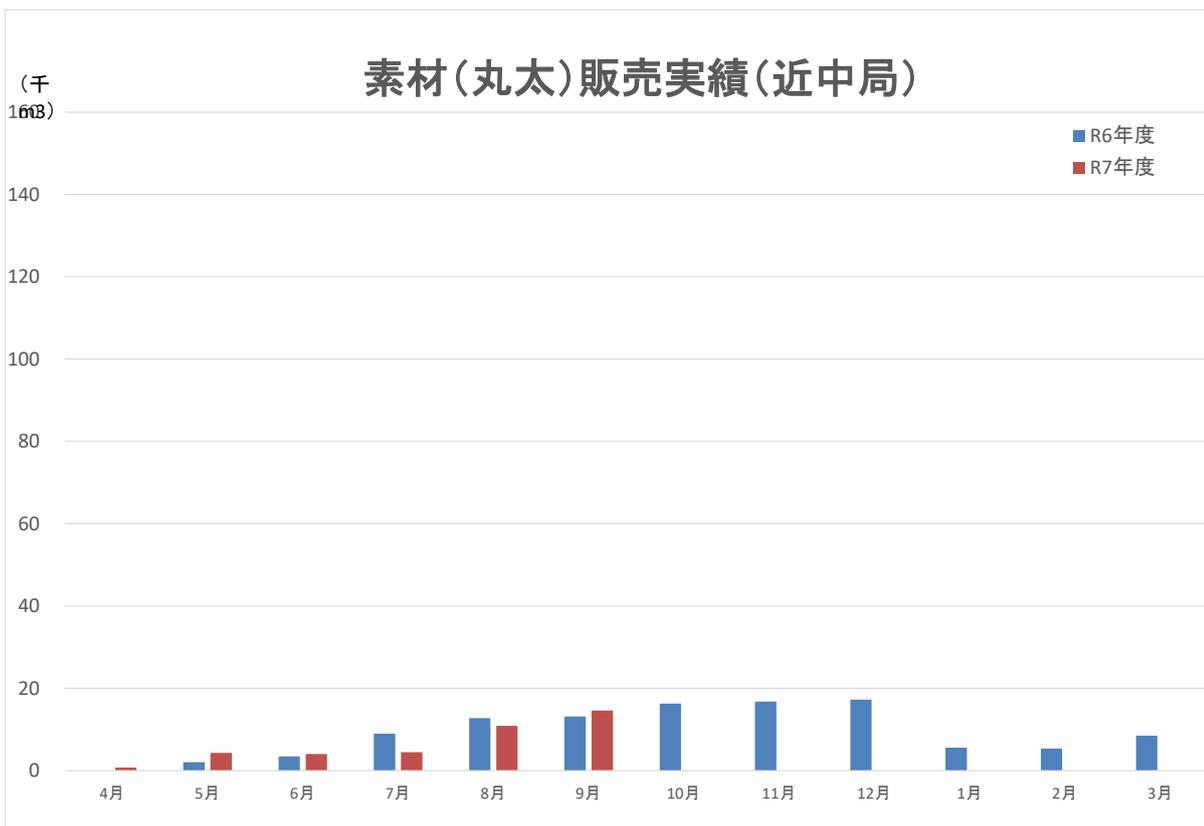
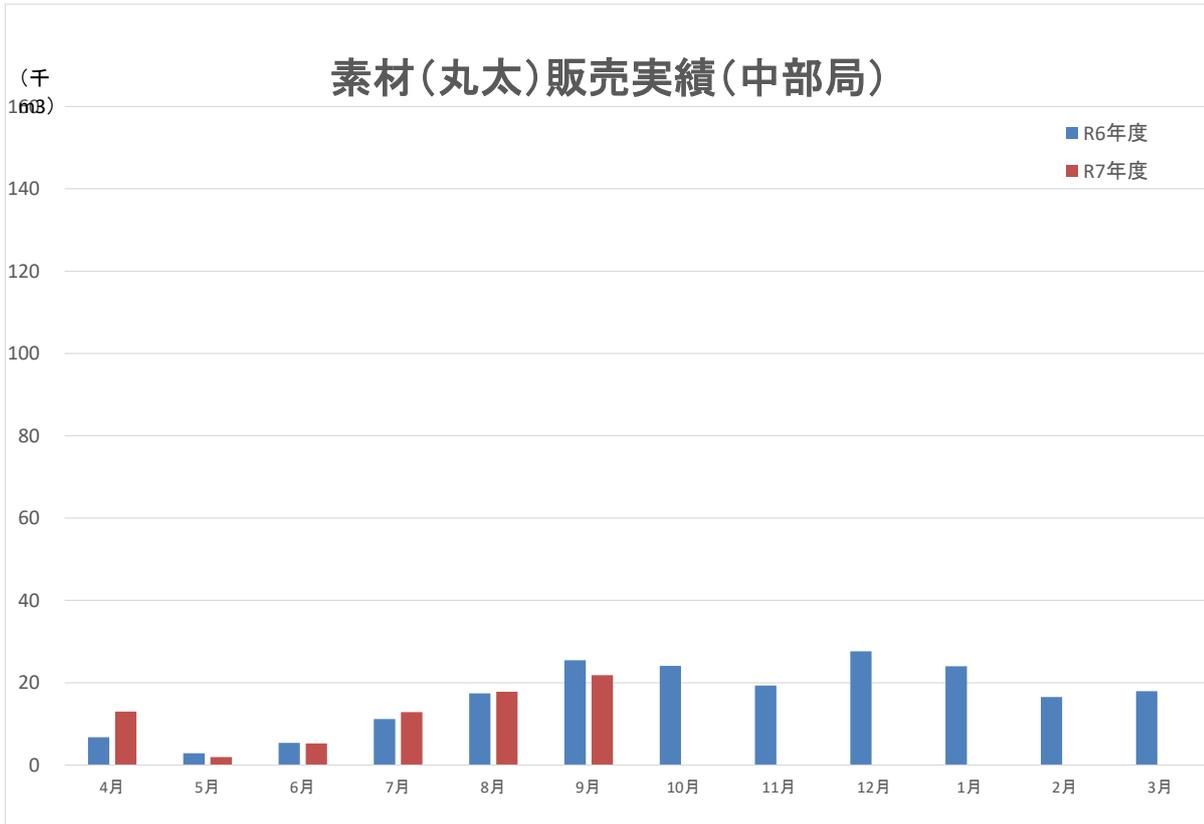
# 全局及び各局の月ごとの素材(丸太)販売実績(1/4)



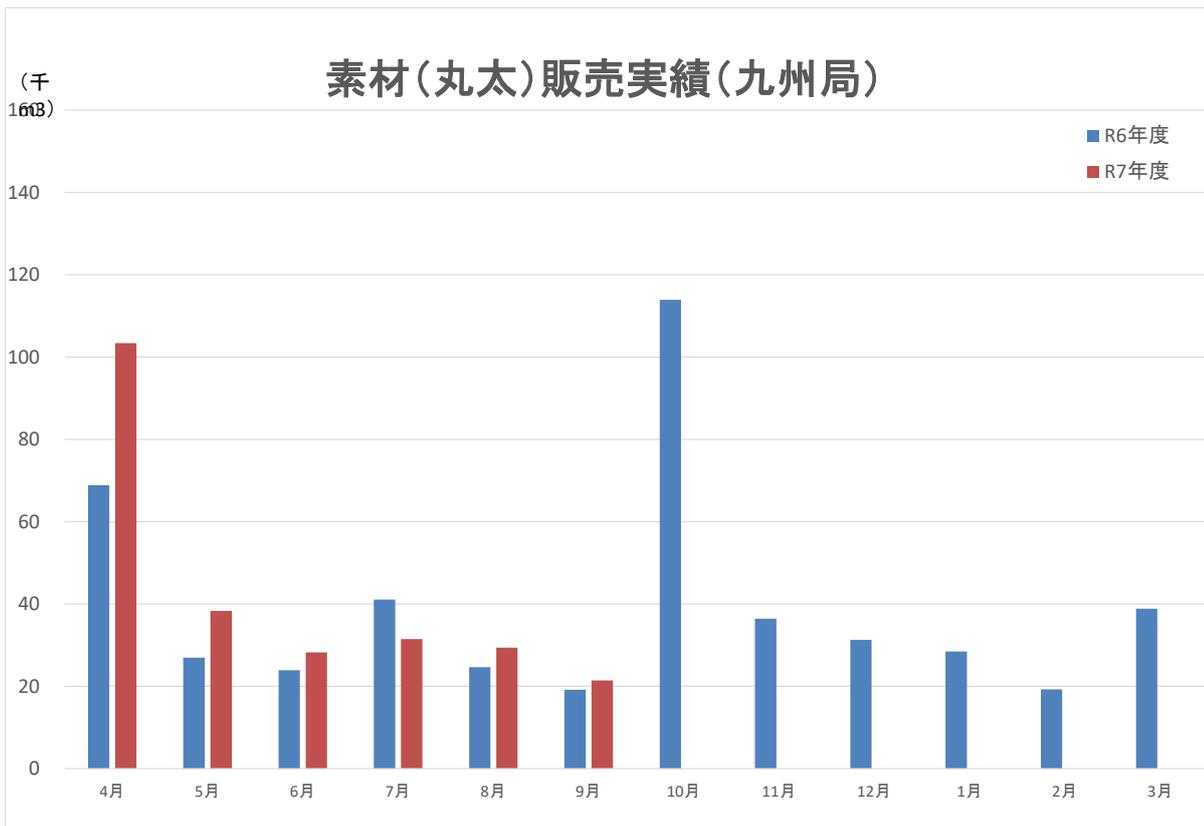
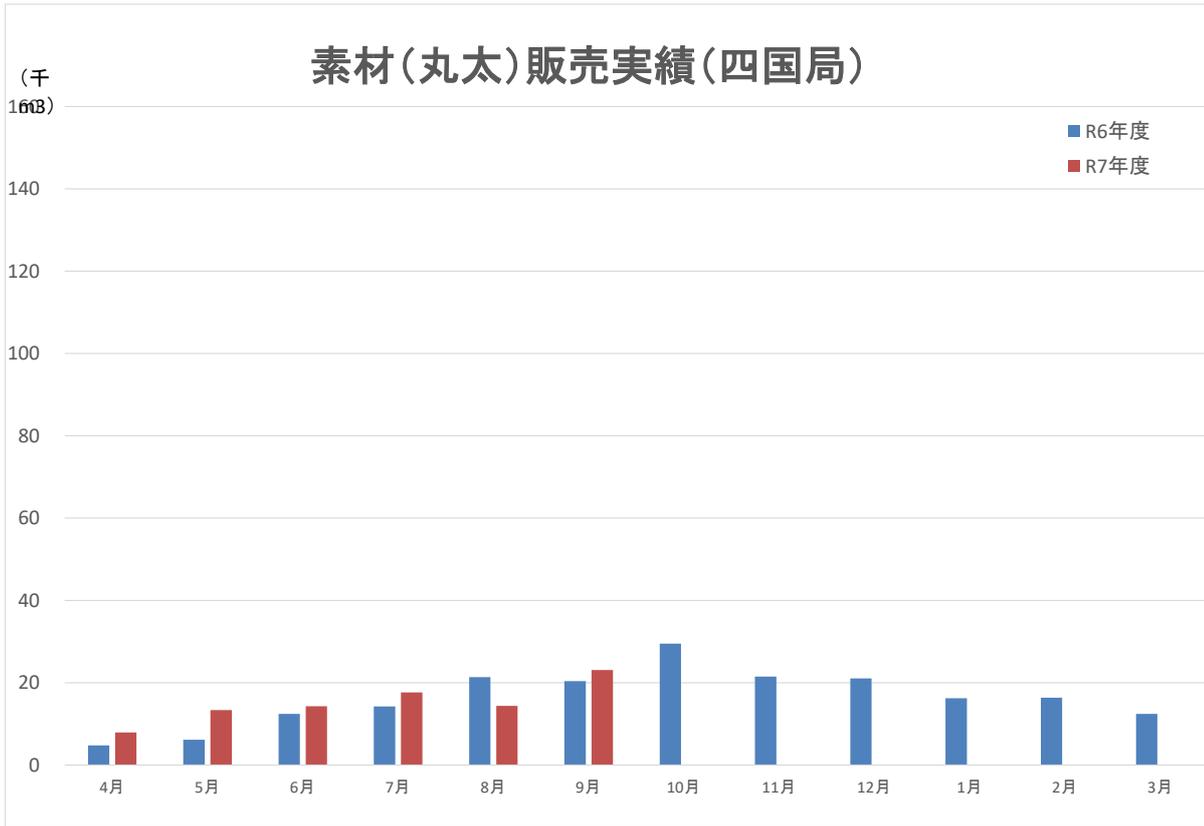
# 全局及び各局の月ごとの素材(丸太)販売実績(2/4)



# 全局及び各局の月ごとの素材(丸太)販売実績(3/4)



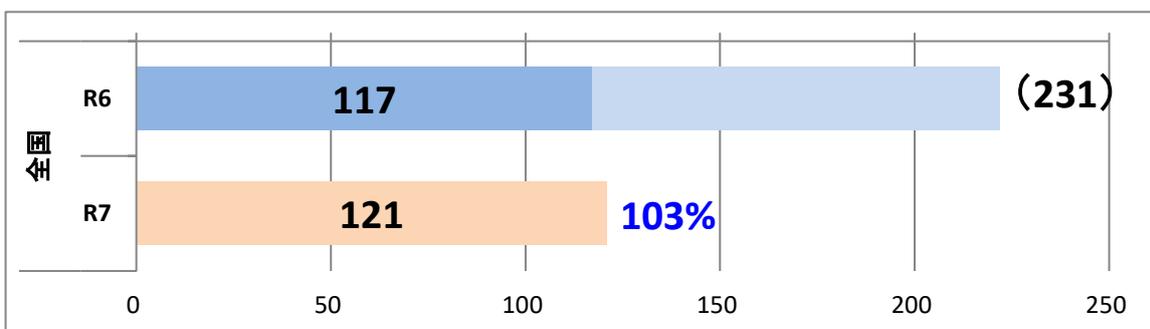
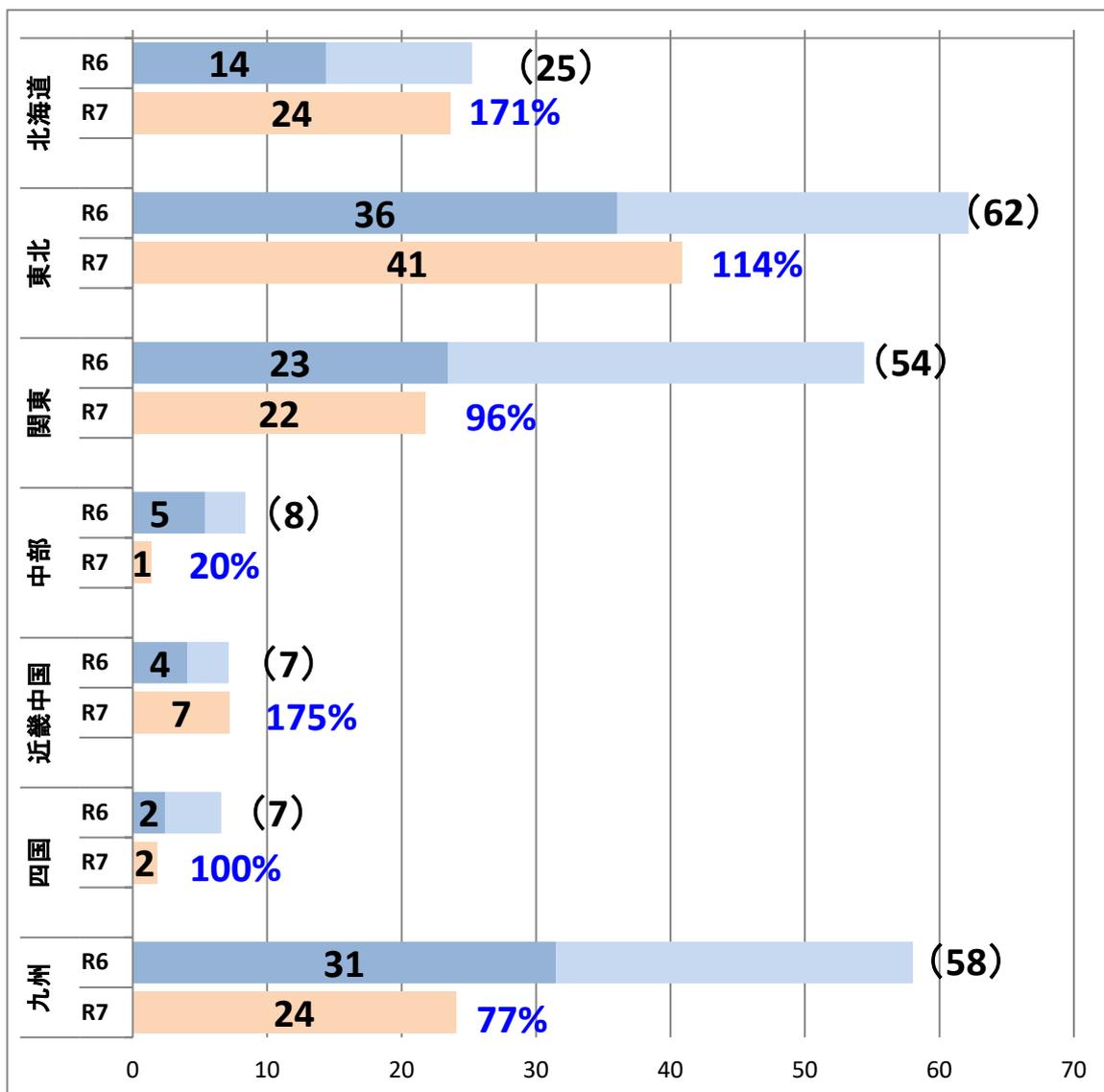
# 全局及び各局の月ごとの素材(丸太)販売実績(4/4)



# 国有林材の販売状況(令和7年9月末時点)

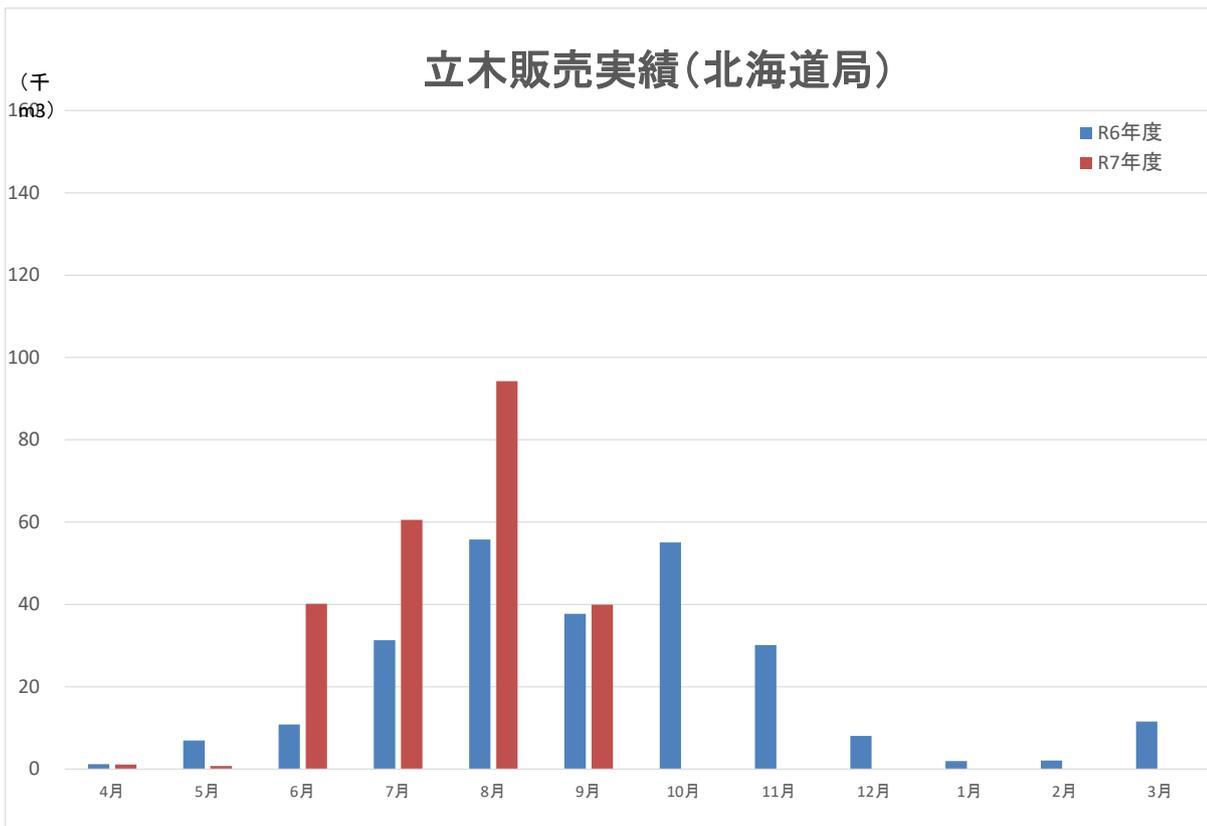
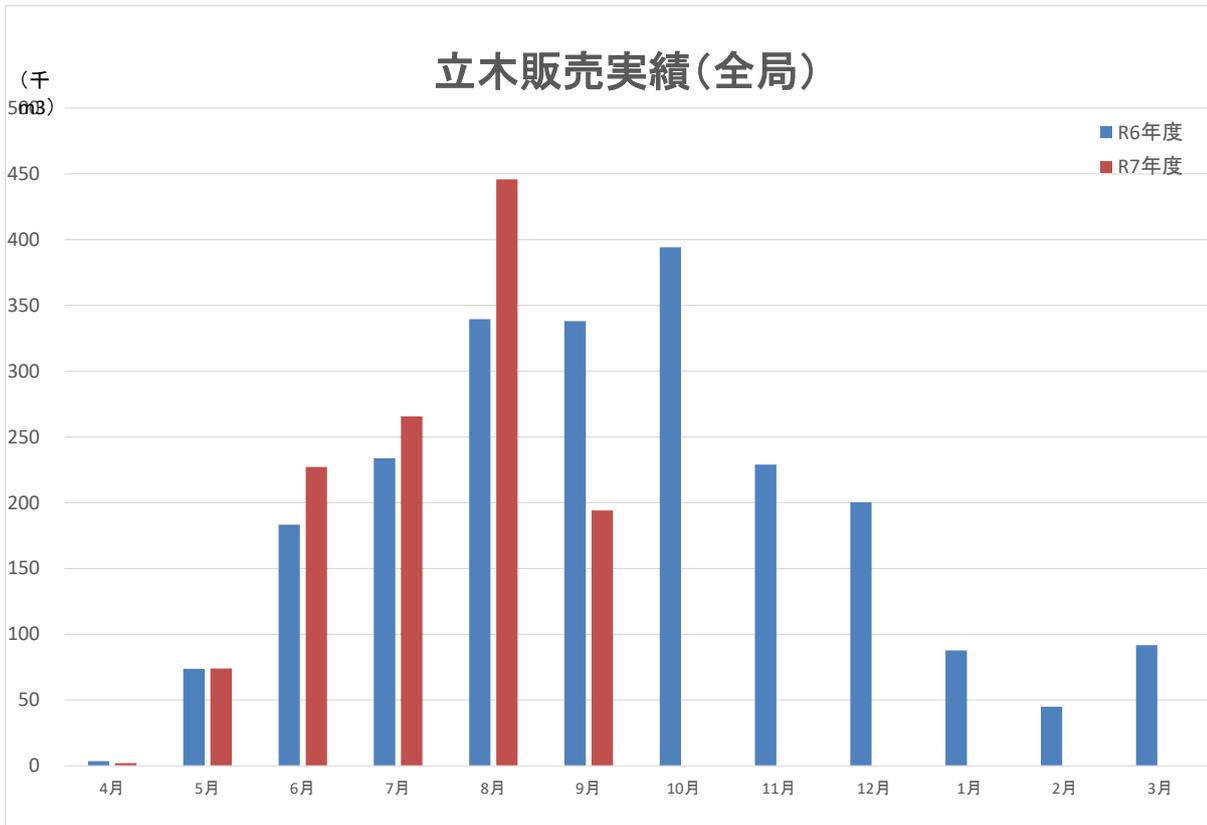
## 【立木販売】

(万m<sup>3</sup>)

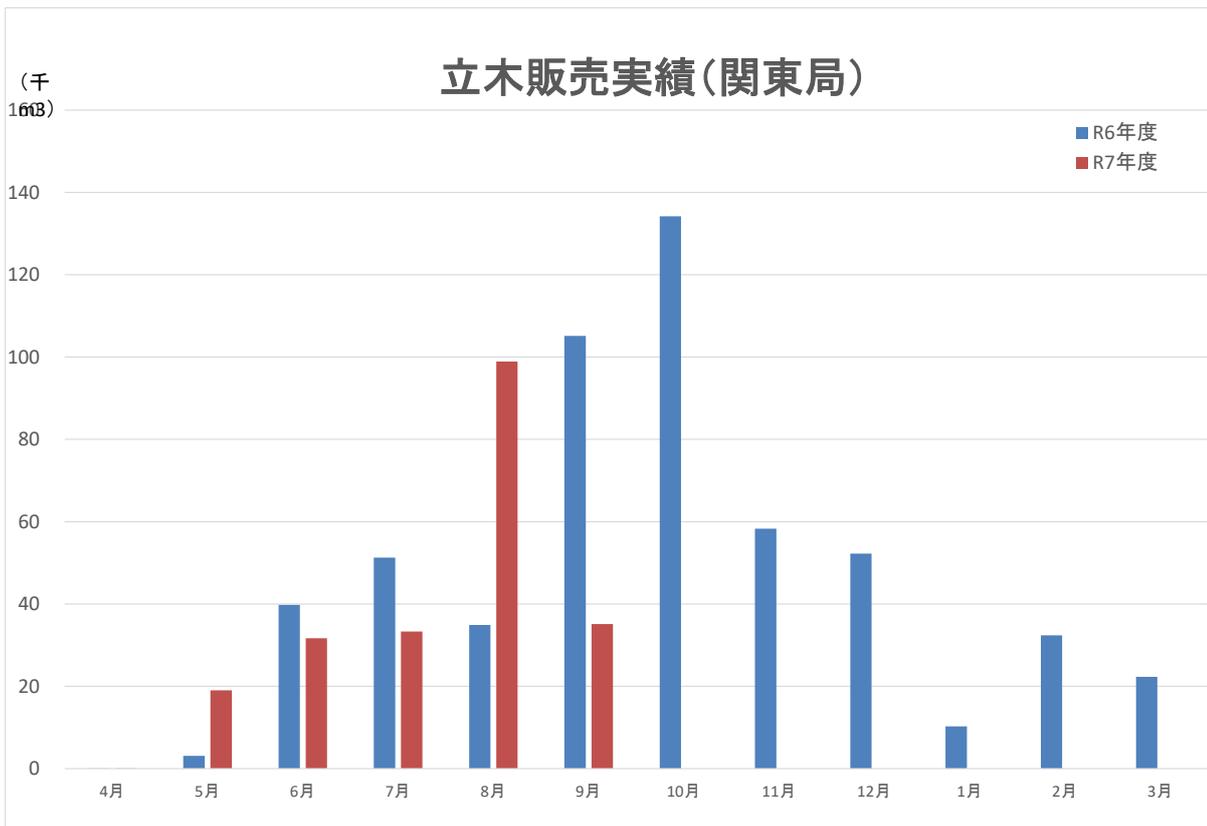
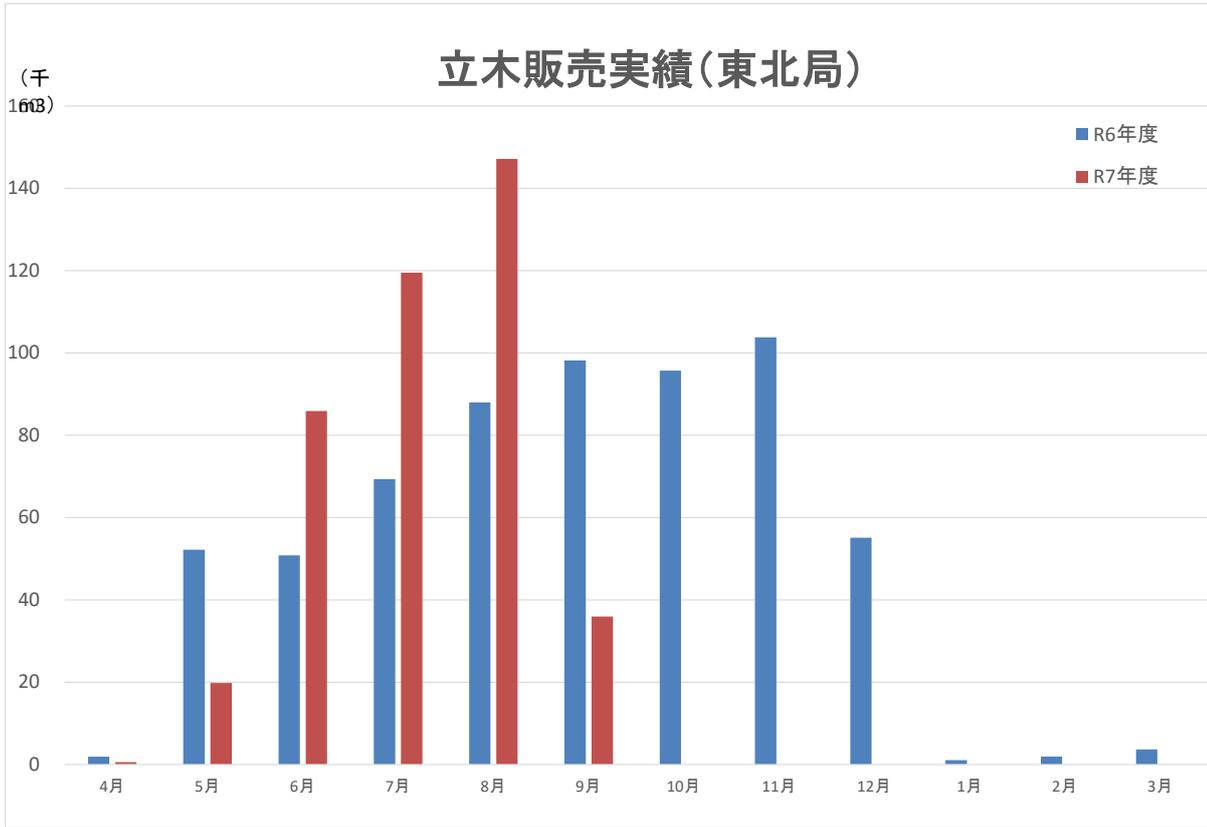


※( )内の数値はR6年度の年間販売量  
 ※青数字は9月末時点での販売量の前年比

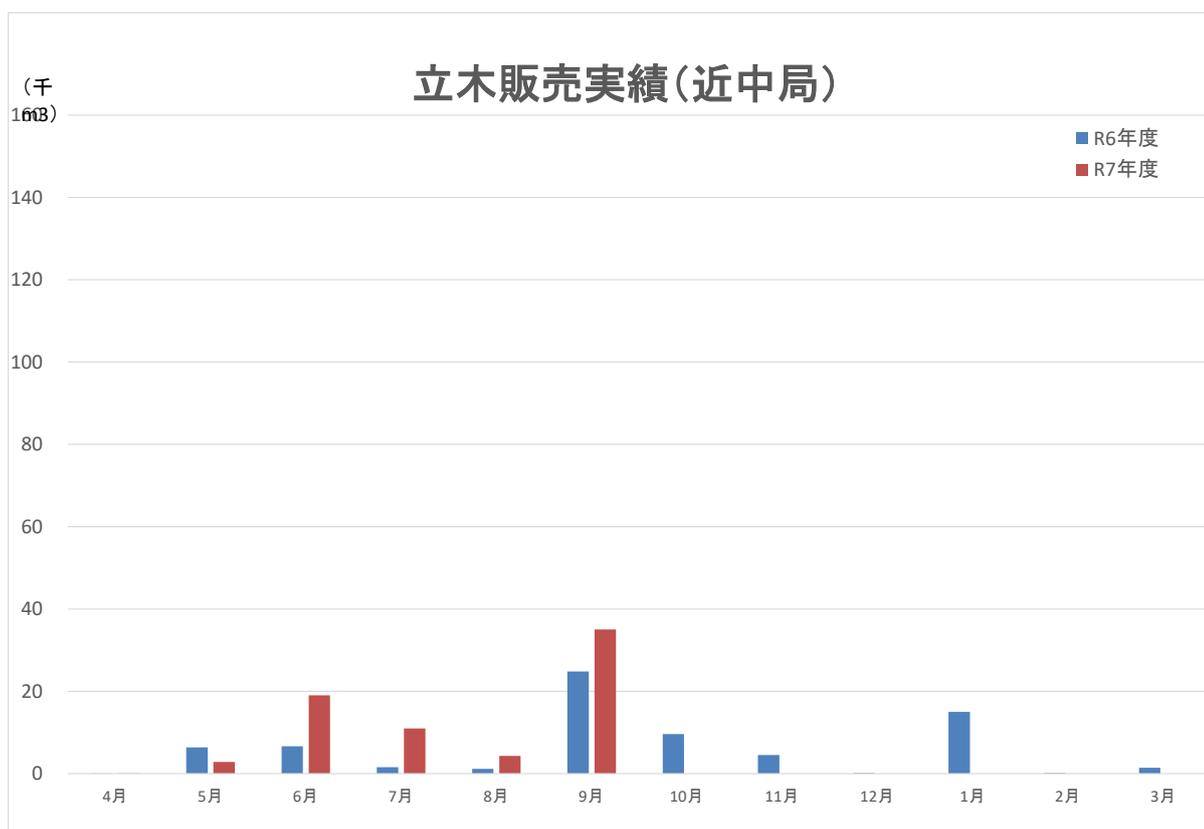
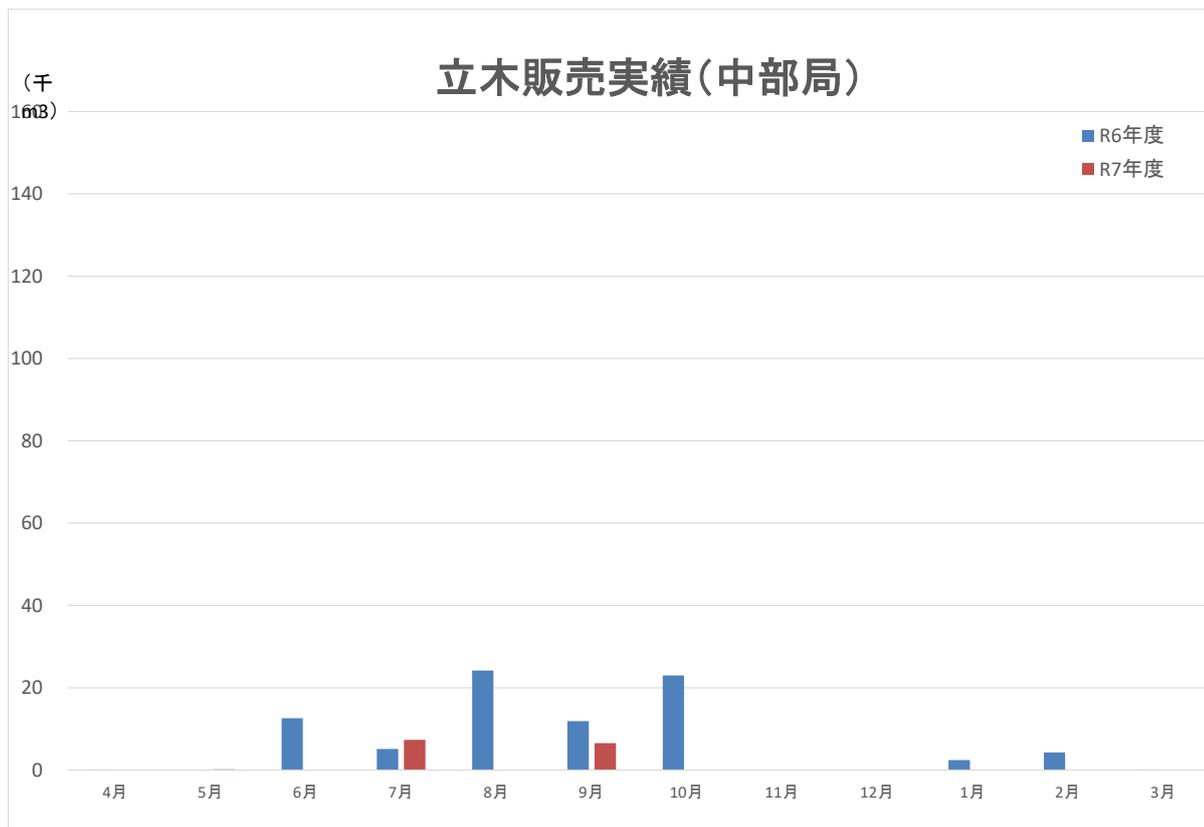
# 全局及び各局の月ごとの立木販売実績(1/4)



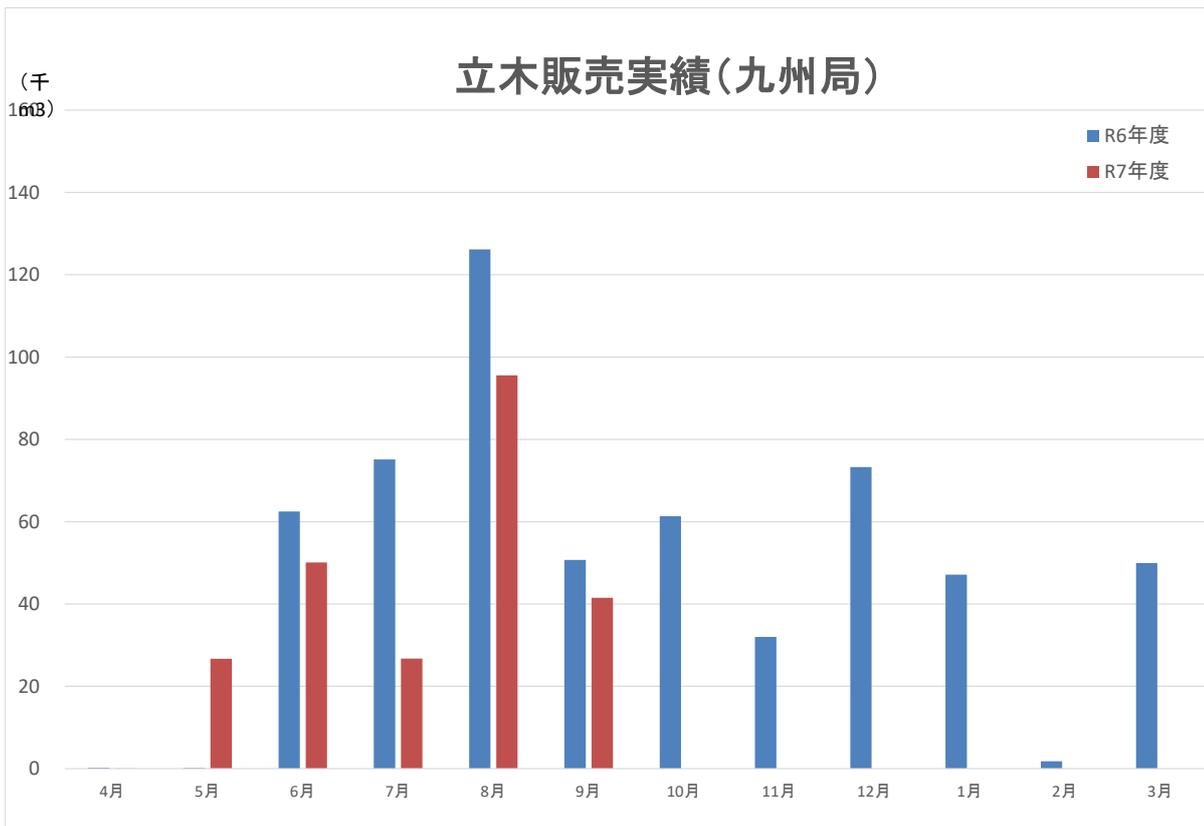
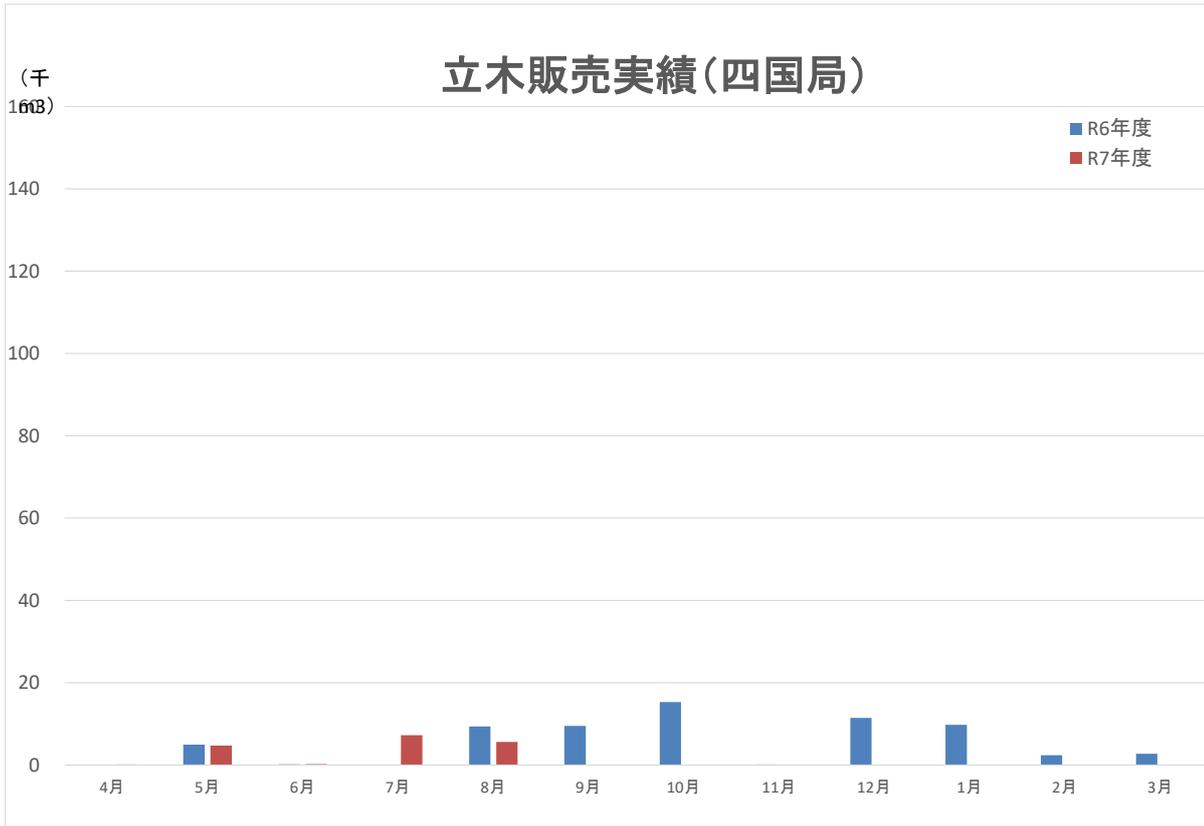
## 全局及び各局の月ごとの立木販売実績(2/4)



## 全局及び各局の月ごとの立木販売実績(3/4)



# 全局及び各局の月ごとの立木販売実績(4/4)



## 令和7年度 各森林管理局の国有林材供給調整検討委員会の検討結果について

北海道森林管理局

## 1. 今年度の供給調整検討委員会の検討結果

委員会開催日	検討結果
令和7年6月23日	今後の木材需給状況については、先行き不透明感が続いているものの、「現時点で国有林材の供給調整の必要はない」と判断する。なお、引き続き今後の動向等についてしっかり注視していただき、地域の実情に即して柔軟に対応策が打てるよう対応することとする。
令和7年9月17日	道内の木材需給状況等を踏まえ、「現時点で国有林材の供給調整を行う必要はない」と判断する。なお、今後の動向等についてしっかり注視し、供給調整が必要となった場合には、地域の実情に即して柔軟に対応策が打てるよう検討する。

## 2. 直近の供給調整検討委員会における主な意見

令和7年度第2回国有林材供給調整検討委員会（令和7年9月17日）

## 【検討結果】

道内の木材需給状況等を踏まえ、「現時点で国有林材の供給調整を行う必要はない」と判断する。なお、今後の動向等についてしっかり注視し、供給調整が必要となった場合には、地域の実情に即して柔軟に対応策が打てるよう検討。

## 【素材生産等】

・素材生産について、林業機械の購入及び修理代が非常に高騰し、また、砂利代金も高騰しているため生産コストが大幅に拡張している状況である。さらには、雇用確保のため賃上げを行っており、非常に厳しい経営が続いているところ。

・運材関係については、燃料費の高騰、運転手不足で厳しい状況である。

## 【原木市場等】

・8月の原木入荷については、減少傾向となっているが、全体的に不足感はない。

・原木在庫について、3か月前後で推移しており、前年度比で見れば少し落ちている状況である。

## 【製材工場等】

・建築材については、住宅需要が回復せず、全体的に悪い状況。

・製品の受注について、大幅な動きはないが、輸入製品が今後は入荷減、また円安の影響もあり値上がりが見込まれるため、トドマツに替えていく動きがでてきている。

・トドマツの製材について、今期は増産する計画であり、生産量、売上ともに目標に達していない状況だが、昨年以前の状況に比べると悪い状況というわけでもない。

## 【プレカット、住宅着工等】

・個人住宅の受注減は、非住宅物件や店舗売りの受注が補っている動きがあるが、秋以降の受注は不透明な状況である。

# 令和7年度 各森林管理局の国有林材供給調整検討委員会の検討結果について

東北森林管理局

## 1. 今年度の供給調整検討委員会の検討結果

委員会開催日	検討結果
令和7年6月19日	今後の需給動向について、木材需要の柱でもある新設住宅着工戸数が、改正建築基準法施行前の駆け込み需要の反動を受けて4月以降減少している等、実需に回復する兆しが見えないため、伐採抑制は続き、原木価格は全般的に強基調(保合)で推移することが予想されるなど、需給動向の先行きは依然として不透明であり、引き続き、各製材工場などにおける原木集荷・製品生産・製品の出荷状況や原木輸出などの動向、米国の関税をはじめとする国内外の情勢などを注視する必要があると思われることから、国有林に対しては、現時点での供給調整の必要性はないが、引き続き管内の市況や需給動向を注視するよう求める。
令和7年9月29日	今後の需給動向について、木材需要の柱でもある新設住宅着工戸数が低迷しており、製材品の実需に回復する兆しが見えず、秋需の気配が感じられない。また、東北管内では断続的に秋雨前線による大雨で、林道、作業道被害が発生しており、秋以降の素材生産に影響が生じることも懸念されていることから、需給動向の先行きは依然として不透明であり、引き続き、木材利用の拡大、各製材工場などにおける原木集荷・製品生産・製品の出荷状況や原木輸出などの動向、米国の関税をはじめとする国内外の情勢などを注視する必要があると思われることから、国有林に対しては、市況に大きな変化はなく、現時点では供給調整の必要性はないが、引き続き管内の市況や需給動向を注視するよう求める。

## 2. 直近の供給調整検討委員会における主な意見

令和7年度第2回国有林材供給調整検討委員会(令和7年9月29日)

### 【検討結果】

国有林に対しては、市況に大きな変化はなく、現時点では供給調整の必要性はないが、引き続き管内の市況や需給動向を注視するよう求める。

### 【素材生産等】

・6月以降は生産請負・保育作業が主であるため、これらの作業が落ち着く年末までは出材量が低調となる。

### 【原木市場等】

・例年見られた夏場の入荷制限がなく、伐採された材が山元からスムーズに流通されているため、虫害材が限定的となっている。

・カラマツの引き合いは依然として堅調に推移しており、今後も引き合いの強い状況が続くと思われる。原木仕入れ価格はスギ・カラマツともに保合で推移している。

・製紙用広葉樹原木の入荷量は俄かに上向く兆しもなく、秋冬の伐採量の増加を期待するしかない状況。

### 【製材工場等】

・春先からの原木不足は続いており、在庫量も大きく減少している。製品は需要が停滞しており、動きが鈍い状況である。昨年あたりから大型国産材製材工場の動きが大きくなってきて、小さい製材工場は入荷量・生産量・出荷量が減ってきている。

・製材用途以外は各社一定量の在庫を抱えており、急激な原木不足に転じることはないと推測するが、製紙用・燃料用は原木確保に苦慮することが予想され、委託販売等で買い気が強まるとされる。

・合板について、月によって販売量にばらつきがあるが、総じて需給に大きな変化はなく低位安定といった状況が続いている。

### 【プレカット、住宅着工等】

・住宅需要減や確認申請の遅延により、住宅向け木材製品の不振を受けている。特に合板が減少している。集成材は国産材率が上がっているため、まだ多少の動きはある。今後、住宅向けの木材製品の不振は続くと思われる。

# 令和7年度 各森林管理局の国有林材供給調整検討委員会の検討結果について

関東森林管理局

## 1. 今年度の供給調整検討委員会の検討結果

委員会開催日	検討結果
令和7年6月26日	今後は、虫害懸念もあり、例年どおり出材量の減少、価格の下落が見込まれるが、建築基準法改正の影響の不透明感もあり、情勢を注視する必要があることから、現時点では国有林材の供給調整は不要とし、各地域の状況を踏まえた的確な供給に取り組むとともに、供給調整が必要となった場合に備え、地域の実情に即して機動的に対応策が打てるよう引き続き検討を求める。
令和7年9月26日	今後は、例年どおり原木出材量、価格ともに上昇していくと見込まれるが、製材品需要は低迷しており、状況を注視していく必要があることから、現時点では国有林材の供給調整は不要と判断し、国有林においては、各地域の状況を踏まえた的確な供給に取り組むとともに、供給調整が必要となった場合に備え、地域の実情に即して機動的に対応策が打てるよう引き続き検討を求める。

## 2. 直近の供給調整検討委員会における主な意見

令和7年度第2回国有林材供給調整検討委員会（令和7年9月26日）

### 【検討結果】

現時点では国有林材の供給調整は不要と判断し、国有林においては、各地域の状況を踏まえた的確な供給に取り組むとともに、供給調整が必要となった場合に備え、地域の実情に即して機動的に対応策が打てるよう引き続き検討することとする。

### 【素材生産等】

- ・担い手不足や猛暑の影響等から、原木の出材は低調で、直送を優先としている。今後出材量が大幅に改善する見込みは薄いところ。
- ・晩秋まで保育作業にかかる見通しで、急激に出材量が増えることはないと考えている。

### 【原木市場等】

- ・猛暑の影響で原木生産が停滞気味であったこともあり、原木価格は例年に比べ高値で推移している状況である。
- ・原木の出材は順調だが、特にスギの引き合いが強いところ。今後は、例年どおり出材量も増え価格も上昇すると見込まれる。
- ・原木販売量は昨年比90%程度となっており、小径材が不足している状況である。なお、冬に向けて原木の荷動きは活発になっていく見通しである。

### 【製材工場等】

- ・製材品の価格は上げられない状況で、特に比較的小さな製材所は苦しいところもあるが、県内の市では市産材活用の取り組みで地元の製材所が活気づいた事例もあり情報提供に努めているところ。
- ・合板用アカマツ、カラマツ原木の出材が少なく不足気味である。なお、合板製品は秋以降に荷動きが出てくる見込みだが、値上げが可能か不透明な状況である。

### 【プレカット、住宅着工等】

- ・秋以降、プレカットの稼働率は持ち直す見通しである。

## 令和7年度 各森林管理局の国有林材供給調整検討委員会の検討結果について

中部森林管理局

### 1. 今年度の供給調整検討委員会の検討結果

委員会開催日	検討結果
令和7年6月30日	国有林においては、引き続き本年度計画している製品生産事業を着実に実行し、市場等への速やかな木材の供給を行うことが必要であり、また、適正な価格により管内の市況の安定化を図ることが重要であることから、地域における木材需給動向等を注視しつつ、供給調整の必要はないものの、国有林材の安定供給に努めていくことを求める。
令和7年9月8日	中部局管内の原木価格に目を向けると、今年は夏場を迎えても素材価格が下がらない状態が続いており、岐阜県のヒノキ、愛知県のスギについては上昇する傾向が続き、原木集荷が最も減少する8月を終え、原木の供給に対する期待も高まっていることから、現時点では国有林材の供給調整は行わず、森林整備を通じた安定的な原木供給に努めていくことが重要である。

### 2. 直近の供給調整検討委員会における主な意見

令和7年度第2回国有林材供給調整検討委員会（令和7年9月8日）

【検討結果】  
原木集荷が最も減少する8月を終え、原木の供給に対する期待も高まっている状況を見据え、現時点では国有林材の供給調整は行わず、森林整備を通じた安定的な原木供給に努めていくことが重要である。

<p>【素材生産等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国有林野事業の早期発注により山側の動きが早く、年間での平均的な出材量も見込まれるところ。</li> <li>・県内の生産量は4割～5割ぐらいが森林組合系統で占めているところであり、昨年よりも若干ではあるが生産計画が順調に進んでいるという状況である。</li> </ul> <p>【原木市場等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・需要については、落ち込んでいるところであるが、極端な出材量の増加もなく、値崩れせずに販売できている状況である。</li> <li>・ヒノキ価格については出材量が非常に少ない状態で、夏場を迎えても下がらなかったところ。しかし、入荷が少ない状態が続いているところであり、引き続きの安定的な供給が必要である。</li> </ul> <p>【製材工場等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・製品については需要が落ち込み、地元の製材工場では入荷を抑える動きが出始めている状況である。</li> <li>・県内の製材品の出荷量が減少の続き、令和6年は過去最低を記録しているところ。</li> </ul> <p>【プレカット、住宅着工等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プレカット工場はみんな落ち込んでいる状況であり、自社については、一般住宅が落ち込んでも、非住宅の方でなんとか利益を出している状況である。</li> <li>・住宅着工数は長野県の場合は大きく減少しておらず、木造率も減少していないが、県外の大手のメーカーが比率を伸ばし、県内の製材品の需要が減ってきていることを非常に危惧しているところ。</li> </ul>
--

# 令和7年度 各森林管理局の国有林材供給調整検討委員会の検討結果について

近畿中国森林管理局

## 1. 今年度の供給調整検討委員会の検討結果

委員会開催日	検討結果
令和7年6月12日	燃料用チップを中心としたB・C材の需要は旺盛であるものの製材加工関係の荷動きが低調であることから、直ちに国有林材による供給調整を行う局面にあるとは判断しない。 なお、国有林においては、地域における木材需給動向、民有林材の出材状況等について注視しつつ情報収集・分析を行いながら、素材生産事業を着実に実行するとともに、立木販売の落札率向上に向けた販売方法の工夫を引き続き行いつつ、木材の安定供給に努めることを求める。
令和7年10月1日	出材量は地域によってばらつきがあるなかで、製材・プレカット材・合板ともに需要は低調である一方、木材チップでは一時期ほどのひっ迫感は緩和されつつあるが、依然として燃料用の不足感が続いている状況を踏まえ、直ちに国有林材による供給調整を行う局面にあるとは判断しない。 なお、国有林においては、地域における木材需要動向、民有林材の出材状況等について注視しつつ、情報収集・分析を行いながら、素材生産事業を着実に実行していく。あわせて、立木販売の落札率向上に向けた販売方法の工夫を引き続き行いつつ、木材の安定供給に努めることを求める。

## 2. 直近の供給調整検討委員会における主な意見

令和7年度第2回国有林材供給調整検討委員会(令和7年10月1日)

### 【検討結果】

直ちに国有林材による供給調整を行う局面にあるとは判断しないところであり、今後は、地域における木材需要動向、民有林材の出材状況等について注視しつつ、情報収集・分析を行いながら、素材生産事業を着実に実行していくとともに、立木販売の落札率向上に向けた販売方法の工夫を引き続き行いつつ、木材の安定供給に努めることを求める。

### 【素材生産等】

・6～9月の原木出材状況は、例年と変わらず大幅に増えておらず、その要因としては、民有林が多い地域では、間伐施業主体で事業地が奥地化しており、搬出を伴わない除伐(捨伐)施業が増えたことが挙げられる。原木価格の安定が続けば、伐り旬が良くなる10月以降の出材は、徐々に増すと予想される。

### 【原木市場等】

・樹種別では前年比で桧とホワイトウッドが増加し、それ以外は微減。為替の影響等で国産材製品の競争力が上がっており、外国産材と比べて取り扱いは国産材が高く、取扱量が増えているものと思慮。

・桧丸太価格は高止まりしている。今後も品薄の予想で外国人購入者が増え、良材はさらに価格高になる見込みとなっている。

### 【製材工場等】

・住宅着工戸数が悪いなか、製品の市況は良くなく、原木の価格は高止まりしており、製材業は厳しい状況。円安が進み、外材の原木もラミナや製品も仕入れが高くなっている。一方で、ビルダーからの値下げ圧力は強く、相対的な安さゆえに国産材への樹種変更が進んでいる。

・燃料用丸太の高騰等により十分な供給が困難な事業者もあり、燃料チップの不足感は当面継続している。

### 【プレカット、住宅着工等】

・一部の都市やプレカット工場では、9月に入り建築確認の承認が追い付いてきて忙しくなっているという話も聞くが、忙しいのは価格の厳しい建売り物件が中心で、プレカット工場の採算は厳しいままとなっている。

・新設住宅着工戸数の動向について、ウッドショック(2022年)を基準に比較してみると、2023年は-2.2%、2024年は-6.6%、2025年は-13.5%と明らかに落ち込みが大きくなっているところ。住宅メーカーに聞き取りしたところ、弱気配で、先行きが反転して増加を見通すメーカーはない状況となっている。

# 令和7年度 各森林管理局の国有林材供給調整検討委員会の検討結果について

四国森林管理局

## 1. 今年度の供給調整検討委員会の検討結果

委員会開催日	検討結果
令和7年6月9日	木材の需給状況については、国産材製品は、輸入材からの代替需要等により、一定の引き合いは見られる状況。原木の不足感は一服し、現状価格は総じて保合で推移しているが、今後虫害等の影響が出てくる時期となることから、価格の下落や出材量減少が懸念されることから、現時点では国有林材の供給調整は行わず、森林整備を通じた安定的な原木供給に努めることとする。
令和7年9月11日	住宅着工戸数は、建築基準法改正前の駆け込み需要の反動で、4月の四国の木造住宅着工戸数は大きく減少し、その後落ち着きを取り戻しつつも、本年7月末の着工戸数は昨年同期比を下回っている状況であり、今後の動向について引き続き注視が必要である。このような中、国産材製品は、一定の引き合いは見られる状況。原木の需給については、出材が少なく不足感があり、スギ・ヒノキともに引き合いが続いており、現状価格は総じて昨年よりも高い水準で推移している。今後、伐り旬を迎え、原木の生産が本格化してくるが、不足感が解消されるかについては、先行き不透明であることを踏まえ、現時点では国有林材の供給調整は行わず、森林整備を通じた安定的な原木供給に努めることとし、引き続き製材品の需要動向や民有林材の出材状況を見極めつつ、地域の实情に即した供給調整の要否を検討していくこととする。

## 2. 直近の供給調整検討委員会における主な意見

令和7年度第2回国有林材供給調整検討委員会（令和7年9月11日）

【検討結果】  
 今後、伐り旬を迎え、原木の生産が本格化してくるが、不足感が解消されるかについては、先行き不透明であることを踏まえ、現時点では国有林材の供給調整は行わず、森林整備を通じた安定的な原木供給に努めることとし、引き続き製材品の需要動向や民有林材の出材状況を見極めつつ、地域の实情に即した供給調整の要否を検討していく

<p>【素材生産等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・林業の担い手が増加しない中、再造林もあることから原木生産量の拡大が厳しい状況である。</li> <li>・猛暑による熱中症を考慮して、皆伐作業地を休止して間伐作業地への転換がある。</li> <li>・スギ材の引き合いが鈍く、ヒノキ材の出材を多くしているところ。</li> </ul> <p>【原木市場等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度と比べ少なく、不足感があることから、買い気が強いわけではないが、スギ・ヒノキとも全品目引き合いはあり横ばいで推移している状況である。</li> <li>・原木不足から単価の上向きはありそうに思うが、大幅な値上りとはならないと思われる。製品市況は良くないが、原木価格は現状のまま推移すると思われる。</li> </ul> <p>【製材工場等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・不足感から原木価格は上昇気味。製品価格は変わっていない。間柱・胴縁の売れ行きは良くない。先行きは不透明。木材価格と大工の賃金は上がっていない。</li> <li>・8月の生産は計画通りで、製品在庫を確保できている状況であり、引続き計画通りに生産し、製品にして在庫を確保していきたい考えである。</li> </ul> <p>【プレカット、住宅着工等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・住宅着工の減少、物価上昇で製品出荷は鈍いが、価格の下げはそれほどでもないところ。</li> </ul>
---

# 令和7年度 各森林管理局の国有林材供給調整検討委員会の検討結果について

九州森林管理局

## 1. 今年度の供給調整検討委員会の検討結果

委員会開催日	検討結果
令和7年6月18日	現時点での供給調整の必要は無いが、梅雨期を含め、今後における民有林材の出材状況や製材工場等の原木仕入れ状況、輸向け原木の動向等を注視しつつ、計画的な供給に努めるべきである。
令和7年9月18日	現時点において供給調整の必要は無いものの、台風などの影響による民有林等を含めた原木出材量の増減動向を注視しつつ、計画的な供給を着実に果たせるよう努めるべきである。

## 2. 直近の供給調整検討委員会における主な意見

令和7年度第2回国有林材供給調整検討委員会(令和7年9月18日)

### 【検討結果】

現時点において供給調整の必要は無いものの、台風などの影響による民有林等を含めた原木出材量の増減動向を注視しつつ、計画的な供給を着実に果たせるよう努めるべきである。

### 【素材生産業】

・原木価格は横ばいで推移しているが、人件費や機械等の値段が相当高くなって、これまでの原木価格で売っても中々利益が出にくく、運搬コストが上がっていることで大変苦慮している。

### 【原木市場等】

・お盆前の降雨により各地で災害があり、この夏は非常に酷暑が続いたが、原木については価格も出材量も安定した形で推移していたところ。

・南九州では出材は全体的に減っており、原因は良い条件の山が無くなって奥地化していることと、コスト高が原因と言われている。

・丸太の輸出について、昨年度に比べて非常に厳しい状況が続いている。特に中国国内の景気があまり良くないことに加え、トランプ関税の問題でフェンス用は非常に厳しい状況が続いているようである。

### 【製材工場等】

・秋需と言われるものが9月・10月と期待して盆明けにどうなるのだろうか非常に注目されていたが、現状は動いている製材工場と動かない工場があり仕事の偏りがある。

・輸入材からの代替需要も少しずつ出ているが、同じ新築戸数でも住宅価格の上昇による建物自体の小型化が進むことにより木材需要の減少が見られているのではないかと感じている。

・バイオマス材について、九州北部ではバイオマス材のひっ迫感が最近までなかったが、九州全域また九州以外からもバイオマス材の集荷にエリアを広げている業者がかなり増えてきているので、値段が九州北部と南部では2,000円ぐらいから3,000円ぐらいの格差がある。おそらく今後は値段を上げざるを得ないのかと感じている。

### 【プレカット、住宅着工等】

・プレカット関係では、8月は盆休みも長く一部地域において水害等もあったことから非常に苦戦するかと思っただが、前倒し生産をかけながら何とか生産目標を下回らないような生産となった模様である。なお、業界としては概ね80%から105%ぐらいの幅で動いているようである。